予の來遊の爲めに新に開かれたる其の庭園に遊び、網を池水に打ちて魚數尾を獲▲午後一時、荒川代吉氏（福岡縣）の招にて喜樂亭の午餐會に赴く▲二時半、諸君子の案内にて醬油釀造場、淸酒釀造場、小學校、龍國山大田寺、淨土宗敎會場等を巡覽す。大田、市街縱横、亦た京都に似たり、而して予が來遊を紀念とし、其の一街を『志賀町』と命名すと申し出でらる、予は新地名の命名に關し容易に個人の姓名を附すべからずてふ英國勅立地學協會の決議に則り、固く之れを辭す、而かも曰く、大田日本人會の決議なれば亦た飜すべからず云々と▲八時、大田常盤倶樂部に講演す、來聽者約一百人▲池龜新一氏（鹿兒島縣）、芙江より此處まで出迎ヒに來られ、又た岩本寫眞師は同行して沿道を撮影せんと仁川より來り會す。

五月十六日（晴雨）

午後一時、内藤氏等より午餐の饗あり。廣澤文庫（京都府）、川島謙一（廣島縣）二氏、芙江日本人を代表し出迎ヒに來らる▲五時、汽車大田驛發、力竹善七、古川又七郎（和歌山縣）二氏、大田より芙江まで同車見送らる、かくて同行者は一驛毎に增加す▲五時半、芙江驛著、下車、諸君子の案内にて芙江郵便局長大島堇氏（大分縣）の朝鮮家屋に投ず▲七時、芙江の官民、晩餐會を開かる、會者十二名▲芙江は京釜鐵道の一驛にして、錦江可航水路の終點にあり、即ち韓國西海岸の食鹽は、川舟にて此處まで溯上し來るを以て、芙江は古來食鹽の市場となり、

芙江。

一個年の數量三萬石（十五萬圓）、春秋二季の大市には鹽舟の輻湊すること時に六十隻に上り、之れを搬出する牛馬七百頭を算するに至る、其他一個年の商品は葉煙草百二十萬斤（十二萬圓）、米一萬石（十萬圓）、大豆一萬石（六萬圓）、鹽魚五十萬斤（五萬圓）等なりと。居留日本人は二部落に分れ、百三十名あり、婦人は芙江婦人會を組織せり▲鳥致院日本人副總代西頭謙吉氏（福岡縣）、出迎ヒの爲め此處まで來らる。

五月十七日（曇晴雨）

午前、池龜氏を錦江岸上の居に訪ふ、江を隔てゝ直ちに花崗岩の一山に對す、山容秀麗、名を問へば、韓名芙蓉山、然かし日本人は高麗富士と呼べりと▲岡淸太郎氏（岡山縣）、鳥致院日本人を代表し、出迎ヒに來らる。午後一時半、汽車芙江驛發、池龜、大島二氏、芙江より鳥致院まで同車見送らる▲二時、鳥致院驛著、下車、守備軍大隊長淸水少佐（潔）笑ひて出迎へらる、少佐は旅順口攻圍軍中に親交せし人、即ち少佐及び鳥致院日本人總代柴田又三郎氏（佐賀縣）の案内にて、埋立地、日本小學校、韓國殖産株式會社農場等を參觀す、埋立地は日本人の經營せしものにして二萬坪あり。小學校は本年一月新築し、當地及び天安、成歡、全義、芙江、新灘津六個所の日本兒童汽車にて通學し來り、生徒四十二名あり。韓國殖産株式會社（資本金三十萬圓）は、當地より東二十町に農場を設け、三十九年七月著手、既墾地一百町歩、未墾地

「高麗富士」。

鳥致院。

三百町歩を所有す▲七時、明治館に晩餐會に赴く、會者は清水少佐、柴田日本人總代等官民二十名。公州居留民會議長稻葉董一郎氏（福岡縣）、公州より此處まで出迎ヒに來らる▲鳥致院、韓名崔致遠、文字の小六〻敗ければとて日本人が今の名に改めたるより、遂に韓人の間にも通用す、市街は忠淸南道（五十八戸）、忠淸北道（六十四戸）の兩道に跨り、一株の楊柳を以て兩道を境界す、東、淸州及び忠州方面、西、公州方面の產物は此驛より京釜鐵道に依り輸出せられ、一個年の賣買額、米（二萬石）、大豆（七千石）、牛皮（八千斤）、日本雜貨（七萬圓）、日本人市街は明治三十九年秋新設せられ、居留民四百人あり▲十時、汽車鳥致院驛發、大川十右衛門（鹿兒島縣）、小倉末次郎（同上）二氏、芙江まで同車見送らる▲十時半、芙江驛著、下車。

五月十八日（晴風）

午前八時、芙江の諸君子、錦江江畔に立食の宴を開き送別せらる。九時、韓船を艤し錦江を下る、芙江より見送の廣澤、吉原二氏、公州より出迎の稻葉氏、大坪里より久保田政吉氏、淸州より松木氏、仁川より森氏及び岩本寫眞師、芙江より田代巡査、別に燕岐より馬場巡査、溫陽より塚本巡査、烏致院より吉見巡査、各武裝して護衛し、一行十二人。江を下ること二十町、携帶し來れるダイナマイトを柳蔭の江水に投じて爆發し、一行眞裸になりて次に飛び入り、黃鰋魚二十餘尾を攫み來る、即ち船中にて膾にし、盃を春潮に洗ひ、麥酒滿飲、韓の

（岸の錦江（江を下る）。）

古詩人金滿菫の『氣氣合沓春雲嬌。神女雜佩振瓊瑤。矜道歡愛巫山高。巫山高湘水深。天空淵搖三君心』（朝雲曲）を朗吟し、且つ和して曰く、

黃鰋紅桃下錦江。江流如錦白鷗雙。春雲合沓朝雲曲。金子遺音自古腔。

午後一時、右岸の獨樂亭に登る、韓の英雄林將軍の別墅にして、山水秀麗、韓國先帝及び大院君が觀月の處なり、即ち行厨を開きて宴を開く、將軍の後裔も亦た來り會し、興益酣なり。三時、左岸の大坪里に上陸す、即ち久保田氏經營の農場にして、氏は明治三十九年三月、鄕里筑後より夫妻にて移住し、土地一百町歩を買收し、日本人十一人の外、韓人を小作に使傭しつゝありしも、昨年來暴徒附近に出沒し、日本人中に歸國せし者もあり、又た危險なればと奠、引揚を忠告したるも、頑として動かず、六千圓を投資し、既に二割の利益を得、夫人は其兒一夫君を愛育し、一夫君は愛犬（玉）と餘念なく戯れ、四近不穩の間に樂々たる家庭を造れり、予、二十餘年前、フィジー、サモア諸島の間に遊び、英人が喰人蠻族の間に樂々たる家庭を造れる實際を見、其の世界に覇を稱ふの偶然ならざるを悟り、以て日本人が道般の氣象に乏しきを痛嘆したりき、而かも今此處に久保田氏夫妻を見、二十餘年來の遺憾を全く慰め得たる感あり。六時半、片麻岩の絕壁、江水より起り、壁上草樹鬱蒼、氣象殊に豪宕なり、韓人蒼壁と呼びて、錦江第一の名勝となす。十時、公州著、上陸、財務官の新官舍に投ず、和洋

（獨樂亭。）

（大坪里。久保田政吉氏夫妻（新開地に於ける日本家庭の典型）。）

（蒼壁。）

（公州。）

韓の三室ありて、風呂あり、絹蒲團あり、盛宴は開かれ、人をして鄙道には距れ海岸には隔つる韓半島の深き内陸にあるを覺えざらしめたるもの、誠に聖代の賜なりとや云はん。

五月十九日（雨）

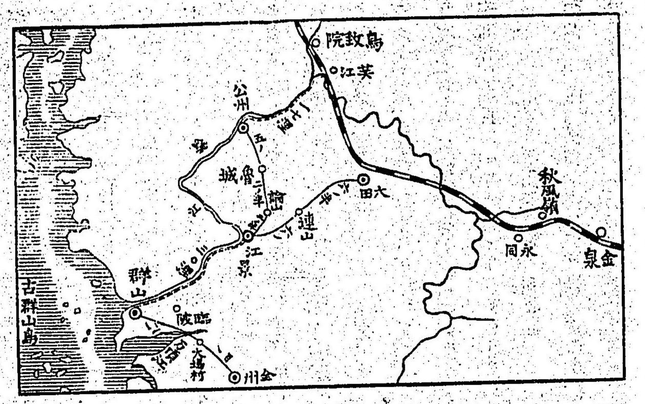
午前、公州日本人會長大南省三氏（愛媛縣）等の案内にて公州城に登り、城背の丘上に上りて李提督（豐太閤征韓の時、明の援軍大將李如松）の碑を摩挲す、『事ノ大之吾誠久積、字ノ小之乾心用ニ診瞶ニ……行長大懼、乞ノ和不ノ許……行長冒遁、清正聞ノ之、棄ノ城而走、海隅悉平……爲天子存ニ小邦ニ、全ノ師而還』の語あり。拱北樓に登る、樓は錦江の絶壁に立ち、下流は即ち我が王朝の時、日本軍が唐及び新羅の聯合軍に破られ、神功皇后以來、韓半島に雄據せじ我が勢力の全滅せし處、因て以て唐の劉仁航は公州に熊津都督府（熊津は日本古史のクマナリ）を置きたりき、今樓上に『熊津督府古雄藩、控扼ニ東南ニ節制尊、山勢拱趨天北極、江流通接海西門、桑麻處處田園好、煙火家家物色繁、聖代即今刁斗靜、亂鴉殘堞自黃昏』の句を掲ぐるを見、覺えず麥酒の大杯を擧げ、當年の我が壯士伊企儺を祭るとて朗吟すらく、

賣ノ酒熊津都督府。樓名ニ拱北ニ感ニ天恩。楊花如ノ雪江如ノ錦。欲ノ醉將軍未死魂。

▲午後三時、公州普通學校にて講演し、了はりて晩餐會を開かる、會者は法務補佐官竹村昌計氏等二十四名▲公州は忠清南道觀察道の所在地にして、其の城郭は百濟、新羅時代より要

公州城。

熊津都督府の登陽。



行程（芙西日より五月一日まで）

大邱——大田——芙江——烏致院——芙江——大坪里（錦江左岸）——公州——魯城——論山——江景——群山——木浦——群山——全州——大場村——群山——夫れより仁川まで汽船（北行）。

害を以て知られ、又た古來穀種の大市場として知られ、市街の人口四千五百、日本人八十一戶、二百三人、日本人會の歲入一千三百四十四圓六十錢、歲出九百三圓九十錢。

五月二十日（雨）

午前八時、騎馬公州發、公州より見送の神武市（福岡縣）、鄙口棟太郎（愛媛縣）二氏、北村、木村の日本

巡査二名、崔、金の韓國巡査二名武裝して護衛し、一行十人。沿道は暴徒不穩の風説あり、昨夜も五名捕縛せられ、内三名は元鎭衛隊兵士なりしと。片麻岩の丘陵幾個を超ゆるや、錦江の大平原は漸く眼前に開展し來り、午後零時半、魯城著（公州より五里）、行厨を開きて午餐す。二時、魯城發▲四時、論山著（魯城より二里半）、論山日本人組合長中井政三郎氏等十數名出迎へられ、江景よりは藥師寺、日高二氏遠く出迎へられ、論山河畔の日本家屋にて麥酒及び茶菓の饗應あり。論山は錦江沖積平原の北東部に位し、附近には中井農場、末永農場、小林農場（大阪市ドクトル小林山郷氏經營）等あり、又た論山河は錦江の一支流にして、錦江より百五十石積までの韓船は此處まで入り來り、水陸運搬の便利あるを以て、自から一小市場となり、日本人は四年前より定住し始め、現在二十三戸、五十二人（内女二十）あり、學校は四百六十圓を支出し、目下建築中にて、來月には落成すべしと▲六時半、江景著（論山より二里強）。七時半、錦江樓に晩餐會を開かる、會者は日本人會長柴田兼克氏（岡山縣）等十七名、藥師寺知嘯氏は多年の舊知、江景は再遊の地なるを以て、諸君子の情誼殊に濃かるを覺ゆ。

魯城。

論山。

江景。

彩雲山の春景。

五月二十一日（金曜）

午前、藥師寺氏の案内にて江景の市街を散歩し、彩雲山に登る、山高からずと雖も、頂上平坦、巨巖並立し、一千年前百濟王遊宴の處なりと稱ふ、一千年後の今日も相變りなき好眺望の地點にして、東西南北各五里の平原を雙眸中に收め、錦江は其間に曲折して、白帆の小舟點々去來し、春霞平遠、霞の中より東に鷄龍山、西に蛾眉山の秀色を認め、人をして我が後老山より濃尾平原を下瞰するの感あらしむ▲午後零時半、藥師寺氏の招にて午餐の饗に赴く、藥師寺氏は、愛媛縣舊宇和島藩士、單身此の地方に入り、韓南學堂を設け、爾來十年、江景を開發して此處に小日本を造りたるは氏の功多きに居る▲八時、江景官民の招にて講演す▲江景は三百年前、韓人金夫妻初めて移住し、百年前、市場の體裁をなし、現在韓人一千戸、五千人、日本人百三十戸、六百五十人あり、日本人の手に依る一個年の輸出高、米四十萬圓、大豆五萬圓あり、又た附近には日本人の農業を經營する者多きを以て、金融組合、土地組合を設け、信托の仲介機關も備はり、又た一方には江景文庫なる圖書館樣のものも設置せられ、韓半島に於ける小日本の模範たる觀あり。

韓半島の濃尾平原。

五月二十二日（土曜）

午前十時、小蒸汽艇に搭じ、江景を發し錦江を下る、下ること三十哩、午後一時半、群山著、上陸、若富旅館に投ず、予が大兵なりとのことを聞き、旅館の主人ブランネルの浴衣を新調したるも、餘りに過大視したるにや、裾は疊を擦りて殆んど歩行すべからず、人も我レも手を拍ちて笑ふ▲七時、群山官民諸君子の招にて豐州樓の晩餐會に赴く、會者は天野理事官、

群山。

三浦統監府技師、宮舘鷲視、四元稅關支署長、保高居留民會議長、教員、新聞記者、貿易商等三十一名▲群山は昨年來遊の頃に比較すれば、海岸には倉庫並び建ち、人家も增加し、又た近海に出漁せる日本漁船は昨年度よりも百二十餘隻增加し、全體に一段の進境を認む。

五月二十三日（晴）

午前十時、三浦技師（直次郎）の案內にて農工商部勸業模範場群山試驗地及び同棉採種圃を參觀す、群山の西半里、獐頂里にあり、水稻、蔬菜、棉花の試驗中なり▲午後二時半、群山官民の招にて群山小學校內に講演す▲木浦居留民長高根信禮氏（茨城縣）、案內として出迎へ來られ、五時、汽船群山丸乘組、群山出港。

農工商部勸業模範場群山試驗地。

群山棉採種圃。

五月二十四日（晴）

木浦。

晨起、群山丸の甲板に起てば、唯見る岩山四圍、船は湖樣の海門に入る、木浦なり。六時、錨を鏡の如き水面に投ずれば、佐藤統監府技師（政次郎）、相川木浦新報主筆（保三）等船まで出迎へられ、七時、上陸、東雲樓に投ず▲九時、佐藤技師の案內にて農工商部勸業模範場木浦出張所及び同臨時棉花栽培所の試驗地を參觀す、木浦の北東二十町にあり、水稻、麥、蔬菜、棉花の試驗中にして、米國種棉は漸く韓國の風土に馴化し、前途屬望の光明を得たりと▲午後零時、儒達山に登る、木浦の背面に屹立する海拔七十米突の岩山にして、木浦をして函館たらしめば、此は正に臥牛山なり▲三時、木浦官民の招にて木浦小學校內てに講演す、校長曰く、拙者の日本より此の學校に赴任するや、知人共は韓人の小兒に教授するにやと問ひたりき、此の如き西洋建築風の日本小學校を建て、日本人のみの學校にして、生徒三百名近くもあるものをば、韓人の兒童を教授に行くにやと問ひたるなど、亦た以て日本內地人が韓國に於ける日本人發展の事情に通ぜざる一般を知るに足れりと▲七時、東雲樓に晩餐會を開かる、會者は佐藤技師、道野鷲視、高根民長、銀行員、貿易商等三十九名。

臨時棉花栽培所。

五月二十五日（晴）

午前九時、木浦居留民團役所構內にて大錨の上に立ちて諸君子と共に撮影す、傳へ云ふ、豐太閤征韓の時、我が水軍の北上せんとするや、李舜臣は、夫の幅狹く潮流の急なる珍嶋の海峽に鐵鎖を橫たへ、我船海峽を過ぎんとすれば、鎖を引きて一々轉覆せしめ、我軍殆んど全滅し、此錨を遺てゝ遁れたるにぞ、韓人は勝利の大獲物として、右水營に保存したり、而かも昨年韓國軍隊解散の時、日本軍隊の手に入り、遂に此の民團役所構內に移したるものと、此錨果して當年日本水軍の遺物なりや否や疑ふべしと雖も、韓人が三百餘年來、日本よりの鹵獲物なりと誇揚するものにして、今や日本人の有に歸し、其上に立ちて諸君子と撮影するに當り、伏仰無限の感興あり▲十時半、小舟を艤し、木浦の諸君子と共に海外の高下島に遊

日本軍敗北の遺物（大錨）。

高下島。

ぶ、木浦灣は此島に依りて袋の如くに包まれ、二重の港門をなし、水深十八尋乃至二十五尋、船は岸邊に横着ケするを得べく、海上風濤の日も灣内は一波を見ず、天成の良灣と云ふべし。十一時、高下島に上陸し、松嶺の下に『李公（舜臣）高下島遺墟記事之碑』を撫で、此島が要害の處とて、太閤征韓の時、舜臣が糧食を貯蓄せし處なることを知り、碑文閲讀の後、諸君子と其側に撮影し、去りて大内暢三氏（代議士）の醸造場、製鹽場、果樹試驗場を參觀す、聞く此島周囲四里、露人久しく其の要害に垂涎し、明治三十年中、露國軍艦數ば來りて實測し、同九月、京城露國公使館附陸軍武官ストレルビスキー大佐は軍艦に搭して來り、此島買收の事を木浦監理に迫りたるも、聽されず、其間日本は木浦居留民澁谷某をして三萬餘圓を投じて全島を購はしめ、以て露人の要望を絶ち、後、大内氏の使用權に移りたるものと、亦た日露戰役前紀の一史蹟たり▲午後三時、木浦に歸へる▲木浦は榮山江口に近き良灣にして、榮山江の平原は東西四里、南北五里、耕地三萬五千町歩、間〻洪水の患ありと雖も、米、麥、大豆、棉花の産多く、又た江の上游羅州、光州、綾州は其の名の如く古來より絹を製産し、上古日本に絹を傳へたるも此の地方なりと云ひ、木浦の東對岸、鳩林は博士王仁（ワニ）の生地なりと傳ふ。此の如く古來人文産業の發達せし地方にして、木浦は其の門口として明治三十年開港せられたるものなれば、一寒漁村は急ち輸出入三百萬圓の一大埠頭となり、日本人口三千三百に上れり。

李公（舜臣）遺墟記事之碑。

高下島問屋。

五月二十六日（晴雲風）

午前九時、騎馬木浦發、憲兵隊長阿武新太郎氏の案内にて觀海洞の貯水池を參觀す、木浦の最大缺點は飲用水の缺乏にあり、即ち木浦居留民團は此處より約一里の間鐵管を以て市街に給水せんと計畫するもの、經費豫算十五萬圓、目下此の資金借入の交渉中なりと▲午後零時、第一銀行木浦出張所主任原田松茂氏の招にて其邸に午餐會に赴く▲二時、汽船木浦丸乘組。四時、木浦出港、風濤烈しきを以て港口に假泊する八時間。

木浦貯水池。

五月二十七日（雨）

午前一時半、木浦丸、假泊地を發す▲十時、群山著、上陸、天野理事官、三浦技師、四元稅關支署長、保高民會議長等、雨を冒して出迎へられ、若富旅館に投ず▲午後零時、天野理事官の招にて精養軒の午餐に赴く、主人は東京上野精養軒に居りたる者と。

群山。

五月二十八日（雨）

午前七時半、沃溝府尹（群山知事）李懋榮氏の遣はされたる輿に駕し群山を發す、行〻〻全州の大平原を横切り、六里、裡里に至る、時正に午後零時、一人の福岡縣人、日本下婢三名を使役して旅店を開き居たり、即ち入りて午餐す。七時、全州著、大和旅館に投ず。全州府城は即ち今日經過せし大平原を負ふて立つもの。

全州平原。

裡里。

全州。

五月二十九日（晴）

午前、全州新報社主守永新三氏の案内にて全州城、多佳亭等を探ぐる▲午後五時、日本人會樓上に晩餐會に赴く、會者は片野騎兵少佐、竹崎觀察道書記官、佐々木財務監督局長、堀同事務官、今野日本人會長、銀行員等日本人三十二名、韓人には尹觀察道事務官、金警視、朴農工銀行長、金民會長等十二名▲全州は後百濟の都せし處にして、後、全羅北道觀察道の所在地となり、全州大平原の市場として、千年間其の繁榮を維持し來り、現在人口二萬、富豪多く、資産十萬圓乃至三十萬圓の者十數名ありと、日本人五百五十、其の商品は石油、金巾、燐寸等なり。

五月三十日（晴）

午前七時、興に乘じ全州發、片野少佐等遠く郊外まで見送らる。九時、東山農場著、主任伴野氏等待ち受けられ、農業經過を説明せらる、即ち岩崎男爵の所有地にして、面積六百町歩ありと。十時半、大場村の細川農場著、即ち細川侯爵の所有地にして、面積九百町歩ありと、細川兩公子（隆恒、清若）歡待、午餐を饗せらる。午後二時半、途上に一日本人あり、曰く藤本農場より出迎とに來れりと、三時半、藤本農場事務所に至る、諸君子待ち居られ、麥酒等の饗あり。藤本農場は群山附近に投資する十餘萬圓、其の所有地は水田五百七十町歩、畠六十町歩、蔗田四十町歩、其他合計八百餘町歩、水田の作得は賣收價額に對し年利一割弱、畠地は

東山農場（岩崎男爵所有）。

細川農場（細川侯爵所有）。

藤本農場。

同二割二歩、蔗田は同四割二歩に當り、何レも相當の利益あるのみか、昨年度中日本米十種を試作したるに、大阪米穀取引所の審査に依れば、日本内地に於けるよりも優等にして、殊に二三種は長防米に比するも遜色なき上米なり、唯だ灌漑の不便なる地方あるを以て、十二馬力石油發動機の圓心式ポンプ（揚水量一時間一千石）を備付中なりと▲四時半、藤本農場發▲十時半、群山著▲一昨日來、全州平原を往復し、其間日本人農業經營の實際を見聞するに、群山附近の經營者二百名に上り、所有耕地の總面積二萬町歩、一反歩の地價上田畠（收穫米二石、麥七斗、大豆一石）十五圓乃至二十圓、中田畠（米一石二斗、麥五斗、大豆七斗）十圓乃至十五圓、下田畠（米八斗、麥三斗、大豆五斗）五圓乃至十圓、小作制度は賭租法と稱べ、糧料、租稅等の一切は小作人に於て負擔し、收穫粒の三分の一を地主たる日本人收得するなりと、尚ほ水害の忠少き事、蝗虫の發生せざる事、大農法を用ひ得る事の三長所ありと雖も、氣候が水田に二毛作を許さゞる事、之れが爲めに晩稻（おくて）種の植付に適せざる事、降雨少く、隨て灌漑用の水少き事の三短所あり、而かも概するに日本内地に於ける農業よりは遙かに利益あるものとす。

群山附近に於ける日本人の農業經營。

五月三十一日（晴）

午後一時半、群山稅關支署上棟式に招かる▲四時、汽船能登丸乘組、群山出港。

仁川。

六月一日（晴）

午前七時、能登丸、仁川著、上陸、信夫理事官（淳平）等出迎へられ、八景園に投ず▲午後零時、仁川觀測所を參觀す▲一時、信夫理事官の招にて其の官邸に午餐會に赴く▲三時、仁川民團役所樓上に於て講演す、來聽者約三百人▲五時、島燈臺局長（重治）等の案内にて仁川市街を散歩す、公園後の岡陵より下瞰すれば、五月幟及び鯉の翻飜するもの百を以て數ふ、永住的日本人の增加せし兆候にして、仁川が不景氣の極端にありと呼號しながら、秩序的進歩に赴かんとする一端を實測するに足れり▲七時半、仁川官民の招にて一山樓に晩餐會に赴く、會者は信夫理事官、富田民長（耕司）、在仁川三新聞社々長及び記者、貿易商、銀行員等五十名。

京城。

六月二日（晴）

午前九時、仁川觀測所長和田雄治氏邸の小集に赴く▲十一時、汽車仁川驛發、和田測量所長、朝鮮海水產組合仁川支部長下村省三氏、扭峴驛まで同車見送らる▲午後零時半、京城南大門驛著、下車、京城居留民長熊谷頼太郎氏等出迎へられ、直ちに巴城館に於ける熊谷民長招の午餐會に赴き、午餐會了はるや、四時、朝鮮日々新聞社京城支局の歡迎會に赴き、歡迎會了はるや、七時、官民諸君子の招にて日本倶樂部に晩餐會を赴く、會者八十七名、曰く、在京城日本人各種類の者悉く集合せりと、又た曰く、此の倶樂部は京城在留日本人口三千の際建

築せしもの、今や日本人其の十倍に達せんとし、民團財政は人口五萬餘の門司市と同額たる形勢にては、更に大規模のものを新設する必要ありと▲京城滯在中は頭本元貞氏邸に客となる。

龍山。

六月三日（晴）

午後二時、龍山に遊び、八景園にて龍山の諸君子より饗應に會ふ、園は漢江の斷崖に立ち、欄干の下、展望十里、漢江は欄下に流れ、白帆紫霞の裡に隱見し、殊に人の心を開濶す。龍山は京城の南一里、當初漢江川船の一津に過ぎず、而かも今日新市街地の十五間幅道路に出づれば、右の岡陵には煉瓦三層樓の韓國駐劄軍司令官々邸起り、北に東に數條の大道路開け、師團司令部、旅團司令部、陸軍官舍、鐵道官舍、學校、倉庫、旅館、料理店は相次で起り、規模何レも雄大、今龍山の日本人が如何なる速力を以て發展せしやは左の人口累計に依りて知るべし。

龍山日本人の發展力。

明治三十年	三五人	三十一年	四六人	三十二年	五三人
三十三年	五六人	三十四年	八〇	三十五年	七二
三十六年	九六	三十七年	三五〇	三十八年	一、四〇〇
三十九年	二、三九九	四十年	三、四二	四十一年	四、七四四

現在日本人戶數一千五百、人口五千、韓人戶數一千、人口四千、合計人口一萬に上らんとす、比類なき長足の發展と云ふべし▲七時半、京城に歸へる▲七時半、鶴原總務長官（定吉）、鍋島外務總長（桂次郎）等の招にて花月樓に晩餐會に赴く。京城日本人の發展力は左の戶口累計表に

京城日本人の發展力。

依りて知るべし。

明治三十一年	四八〇戶	一、七四四人	三十二年	五三五戶	一、九八五人
三十三年	五九九	二、一五一	三十四年	六三九	二、四九〇
三十五年	七七七	三、〇三四	三十六年	九〇三	三、六三五
三十七年	一、三三〇	五、三三三	三十八年	一、九八〇	七、六七七
三十九年	三、二六	二、七二四	四十年	四、八三五	三、四四七
四十一年六月	約六、〇〇〇	約三、〇〇〇			

永登浦。

六月四日（雨）

午前十一時半、京城高等女學校にて講演す▲午後二時、汽車京城南大門驛發▲二時半、永登浦驛著、下車、永登浦諸君子の案内にて日本人の栽培せる蔬菜畠、韓國度支部工業部分工場等を參觀す、分工場の雇人には予が鄕里泰州地方の兎工多し。七時、永登浦官民諸君子の招にて濱田屋に晩餐會に赴く、會者は力武監守長（竹一）、保坂郵便局長（久松）、農業經營者等四十五名。永登浦は京釜鐵道にて仁川に到る乘換驛なり、漢江近く流れ、水陸運搬の便利多く、又た附近は平坦肥沃にして、田野遠く連り、日本人の蔬菜を栽培する者少らず、日本人二百八十六戶、人口一千〇二十六。

韓國皇帝謁見。

六月五日（雨）

午前七時、汽車永登浦驛發▲七時半、京城南大門驛著、下車▲十一時、伊藤統監帶同、韓國皇帝陛下に昌德宮に拜謁す、予が韓半島旅行の事を聞召され、卿の健康を問ふとの御語を賜はる、卽ち陛下の臣民より眷顧を受け、且つ陛下の臣民の間に安居せる日本人よりも亦た歡待せられ、御寵の如く健康に愉快に陛下の御領土を數十日間旅行せしは、一生の大快事なりしと奉答し了はり、一拜して御前を退く▲午後一時、伊藤統監官邸の午餐會に赴く▲三時、汽車京城南大門驛發、鐵道管理局よりは三十七八年の戰役に鹵獲せし客車（元露國東淸鐵道所有）を連接し、特に予が乘用に供せらる、會、札幌同學の赤壁農學士（次郎）、見送旁、開城まで同行せらる、此時、此の特別客車、二十餘年前なる同學の友と相携へて異鄕に同行す、人生の開心亦た此の如きものあるか▲五時半、長湍驛通過、開城居留民總代石橋新氏、開城より此處まで出迎へらる、長湍附近は大豆の主產地にして、所謂長湍大豆の本場なり、又た高麗朝の故都開城に隣接するを以て、同時代貴人の墳墓多く、朝鮮美術品の隨一たる高麗燒は附近の墓地より出づるもの多しと▲六時、開城驛著、下車、大和旅館に投ず▲八時、大和旅館にて晩餐會を開かる、會者は開城守備隊長（攬澤大尉（盛））、楠本警察署長（茂作）、石橋居留民總代、開城新報社岡本豐喜氏等二十六名。宴會後、京城より到來せし韓人俳優の演技を見る。

長湍。

開城。

開城の人蔘。

滿月臺（高麗舊王宮）。

南大門（開城）。

善竹橋（鄭夢周殉義の處）。

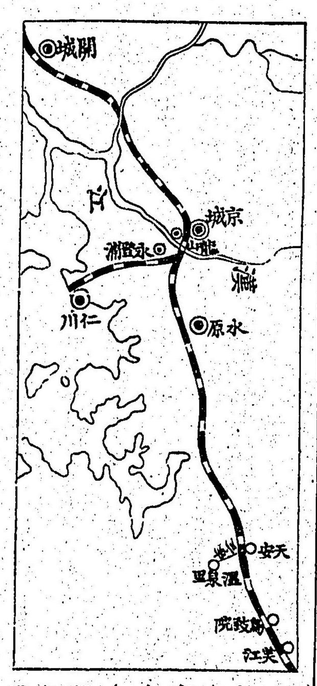
六月六日（土曜）

午前、度支部蔘政課吉田外喜太郎氏の案内にて梨井里に蔘政課の人蔘畠及び紅蔘製造所を參觀す、開城は所謂朝鮮人蔘の本場にして、一個年の製造高紅蔘一萬五千斤、白蔘五千斤、此價一百萬圓、清國へ輸出し、韓國の一財源となるもの。滿月臺に遊ぶ、松嶽の下にあり、卽ち高麗王宮の遺趾にして、顧みる者も無き夏草の間に狼藉すと雖も、其の高サ十五米突、長方形の花崗石を疊み、當時の雄大想像するに足る。南大門の鐘樓に登り、開城の全市を下瞰す、鐘は元の至正六年（西暦一三四六年）、元使等の來りて鑄造せしもの、門は此處より起りたる韓國現王室太祖李成桂の建てたるものと、南大門より十町、善竹橋に遊び、鄭夢周殉義の跡を吊ふ、夢周（西暦一三三五—九二年）は高麗王仁宗、毅宗の二朝に仕へ、官、禮部侍郎に至る、高麗の晩年、李成桂の恭讓王を廢して革命を行はんとするや、夢周大節凛々、遂に屈せず、成桂の黨の爲めに此の橋上に則さる、橋は石を疊み、石面に朱點あり、韓人『橋石朱般、世稱三先生血』と稱ふ、橋邊に、身を殺して仁を成すの義に取り成仁碑閣あり、其の左右に『高麗鄭侍中殉義碑』を建つ、碑面は滑かにして『石常濕如沐雨、世以爲泣碑』の文あり、無心の少女、三々五々、衣を橋下の水に洗ひ、橋石に揭げて、世運の興亡を知らざるもの、如く、却て限り無きの風趣あり。開城は高麗の太祖の遷りてより三十二世恭讓王の時、國の亡

新幕。

沙里院。

ぶるまで四百七十年間の王都にして、其の盛時には『京中十萬戸』と稱へらる、李成桂、高麗の後を承け、現王室の太祖となり、卽位の三年、都を漢陽（京城）に遷し、定宗の時、再び開城に移居し、太宗の五年（開國七十四年）漢陽に復都せり、然れば一に松都と呼び、苟くも高麗史將た現王室創業の歷史を攻究せんとする者は、主として此處を探討せざるべからず、高麗亡びてより五百年、今尙ほ韓人七千戸、人口三萬を盛り、日本人三百戸、人口一千三百に上り、商況は一個年七十萬圓、內四分は韓人、六分は日本人の手を以て取引し、京城、平壤と相並びて韓國三都の一たる面目を維持せるを認む▲午後二時、汽車開城驛發▲五時、新幕驛通過、平壤實業新報社主白川正治氏、出迎ヒとの爲め午前より此處に待ち居られたるが、予が開城滯泊のことを知り平壤に引返へされたりと聞く。新幕は五穀、薪炭の一市場にして、日本人百二十二戸、人口三百九十二（女百六十）ありと▲七時、沙里院驛通過、平壤居留民長代理澁谷季五郎氏（熊本縣）、平壤より此處まで出迎へらる。沙里院附近は地勢平遠、西、南、北の三方は一望際涯なく、水易河は北西に流れ、河は大同江口と通じ、水陸運搬の便利多く、將來有望の地方となす、日本人四十八戸、人口百五十三（女六十九）ありと▲九時半、平壤驛著、下車、旅館櫻屋支店に投ず、時に弦月淡く懸り、大陸性の凉氣陣々として衣袂を拂ひ、季節日本內地より早きを知る。



行程（六月一日より六月末日まで）
仁川―京城―龍山―京城―永登浦―京城―開城―平壤―新義州―安東縣―水原―天安―溫泉里―天安―夫れより釜山まで京釜鐵道。

六月七日（晴）

午前九時、輿に乘じ平壤發、巨智郡理學博士（忠承）、京城より案内の爲め來られ、同行して松羅山炭坑を參觀す。平壤炭田は、大同江の東西にY字形をなしつ延長すること十六里半、所在の石灰岩は往々炭層を波狀たらしめ、爲めに炭層の傾斜を緩かにし、採炭上に便益を與ふ、炭層は四尺乃至三十尺、殆んど『狹ミ』なく、炭質は無煙炭にして、海軍省所轄山口縣大嶺炭層に優れり、現今稼行せるは松羅山等四箇所、出炭高一日百七十噸、使役人員五百、平壤を距る僅かに一里、低き岡陵にありて、水陸の運搬便利なれば、撫順炭田と共に覇を東部亞細亞に稱ふるに足るもの▲午後零時、平壤に歸へる、澁谷民長代理等、酒肴を調へ、舟を

松羅山炭坑。
平壤炭田。

艤して、大同江上に待ち居られ、直ちに江を下り、綾羅島に上り、平壤水道工事を見る、六萬人に對する給水設計にして、韓國政府の企圖に懸り、豫算一百三十萬圓、三個年間の繼續事業なりと。右岸に練光亭あり、文祿の役、小西行長、明將と和を媾じたる處、近くは日清の役、清將、妓生を集めて中秋の月を賞し、置酒徹宵、絃聲我軍に達す、而かも天未だ明けざるに我軍突擊、清兵大敗、平壤我手に落ちたるなり。浮碧樓に登る、大同江岸の絶壁に立ち、江上の大野を下瞰し、遠山地平線を限り、遠山、大野、絶壁、清流、長江、嶋嶼、市店、一望の中に收まり、韓人の『天下第一江山』と誇稱するもの宜べなり。牡丹臺の下より玄武門を經、箕子廟に謁し、農工商部種苗所を參觀し、七星門に入る、日露戰役の初期、露國コサック騎兵の襲ひ來るや、我が守備隊及び平壤日本人義勇隊の一齊射擊して擊退せし處、即ち日露戰役第一の交戰なり。平安南道觀察道を訪ふ、道書記官大木安之助氏、平遠堂に待ち受け、歡待せらる▲四時半、平壤官民の招にて新築中の日本小學校に講演す、來聽者約二百五十人▲七時、平壤官民諸君子の招にて齋亭に晩餐會に赴く、會者は小城鐵道管理局出張所長（齊）、中山鐵道事務官（助治）、向田警視（幸藏）、中村判事（敬直）、佐藤副理事官（金助）、小沼旅團副官（八郎）、兩角水道技師（熊雄）、松尾民會議長（重信）、在平壤二新聞社々長及び記者、醫師、銀行員等三十名。本壤は韓國二千年來の舊都にして、京城に次ぐ大都會なり、紬、絹、米、大豆、煙草、無煙

大同江の舟遊。
綾羅島。
平壤水道工事。
練光亭。
浮碧樓。
牡丹臺。
玄武門。
箕子廟。
農工商部種苗所。
七星門。

炭の市場となり、一個年輸出五十萬圓、輸入三百萬圓、觀察道、理事廳、歩兵第二十六旅團司令部、控訴院、地方裁判所、衛戍病院、同仁病院、二新聞社、市街鐵道會社等あり、日本人二千戸、人口六千六百、其の日本人發展力は、

平壤日本人の發展力。

明治二十八年	四二戸	一二〇人	
三十一年	三〇	八〇	
三十三年	五二	一五九	
三十五年	六三	二一四	
三十七年	九八	三五三	
三十九年	一、四四三	四、五三〇	
二十九年〔排日熱の爲め、仁川日本領事館よりし引揚の命令下りて、日本人一同仁川に引揚ぐ〕	三七戸	九七人	
三十二年	三七	九七	
三十四年	五八	一七四	
三十六年	八五	二八四	
三十八年	四〇七	一、五八四	
四十年	一、八七〇	六、一七〇	

平壤日本人の發展力は以上の如く長足なるを以て、隨て市街宅地は一坪七圓乃至三十圓、附近の畑地すら一反歩百三十五圓乃至二百七十圓に上れりと。又た平壤を中心とせる日本人農業經營の主もなるものは、

五、三〇〇町	韓國興業株式會社	
二〇〇	岡部子爵	
一〇〇	玉置茂次郎	
一、〇〇〇町	太田農園	
二〇〇町	片倉組	
二〇〇	三和農園	
一五〇	松尾重信	

六月八日（雨晴）

午前六時、汽車平壤驛發、中山鐵道事務官、同車定州驛まで見送られ、沿線の狀況を說明せらる▲八時半、新安州驛通過、清川江農產平原の門口驛にして、日本人四十二戸、人口百十二（女四十七）ありと▲十時半、定州驛通過、中山事務官に別る。定州は歷史上有名の城郭ありし一都會なりしが、日清の戰役、兵火に罹り、昨今漸く回復の觀あり、驛に近き『忠魂碑』は明治三十七年五月、日露戰役の當初、加納騎兵中尉以下六名斥候として來り、露兵の先鋒と激鬪し、戰死したる紀念なり、日本人現在約三百五十人▲午後零時、宣川驛著、韓人五百餘戸、日本人約一百人▲二時半、新義州驛著、下車、京義鐵道線の終點なり、岩田旅館に投ず。新義州は鴨綠江に面し、韓半島西海岸極北の都會なり、元と茫々たる砂原なりしが、鐵道の開通と共に日本人移住し、恭盤目の如き新市街を起し、戸數五百三十六、人口一千五百五十三、別に韓人、淸人各、五百人あり。

新安州。
定州。
宣川。
新義州。
鴨綠江を渡る。
安東縣。

六月九日（晴）

午前、鴨綠江對岸の安東縣（滿洲）より久山順平氏（日淸公司）出迎として新義州まで來らる、新義州居留民長岩永重華氏等今一日の滯留を强ひられたるも、豫定の日程變更する能はざるを以て好意を謝し、久山氏と共に鴨綠江を渡り、正午、安東縣に著し、日淸公司に於て久山

氏午餐會を開かる▲午後二時、市街を散歩す、全體の規模雄大、而かも巷衢の端正なる京都に似たり、日本小學校を參觀す、生徒三百餘人ありと▲四時、安東縣官民の招にて陸軍木材廠樓上に講演す▲六時、鎭江山に登る、日本寺院あり、寺より下瞰すれば、眺望開濶、大野瀰茫、鴨綠の大江は汪々として流れ、長白山は遠く、安東宮士（元寶山）は近く、遠近の山色我が眉端に集り、覺えず一大快呼▲八時、安東縣官民諸君子の招にてスミレ樓に晩餐會に赴く、會者は時尾工兵大佐（善三郎）、今川林學士（唯市）、高津法學士（友保）、中村安東縣知廳間（順之助）、中野居留民長（初太郎）、在安東二新聞社理事及び記者、貿易商等二十名▲九時半、正金銀行支店奥田源三氏等の招にて中五樓に宴に赴く、宴後、支那市街を巡覽し、十一時半、日清公司に歸へり、悪書を揮毫する數枚。

鎭江山（鴨綠江大野の眺望）。

六月十日（雨）

午前六時、鴨綠江を渡り、歸途に就く、安東新報社理事南部重遠氏、中村海田師、奥田、久山の四氏、新義州驛まで見送らる▲七時、汽車新義州驛發。

歸途に就く。

六月十一日（雨）

午前零時半、汽車水原驛著、下車、豐永博士（眞里）、向坂（幾三郎）、北澤（小八郎）の諸學士、三輪日本人總代（政一）等、此の夜深に出迎へらる、厚情謝すべし、本田博士（幸介）の邸に投ず▲九時、豐永博士、宮原（忠正）、向坂等諸學士の案内にて西湖に遊び、杭眉亭に倚りて遠山近水を賞づ、湖は李朝正宗の經營せし貯水池にして、水原の沃野は今に其の餘澤に霑ふもの多く、而して韓國農工商部勸業模範場は此湖に傍ひて此の沃野に起り、總面積六十八町歩、水稻、煙草、穀類、蔬菜、果樹、杞柳、家蠶等の試驗中なり、勸業模範場に傍ひて農工商部農林學校あり、水田、果樹園、桑園、植物園、厩舎、肥料舎等皆な備はり、生徒五十名、宮原教頭、生徒に講演せんことを需めらる、即ち演べて曰く、唯今杞柳の試作を見たるが、杞柳は上古韓國より日本の但馬地方に傳はりたるものと云ふ、而して今や日本但馬の杞柳は全世界隨一の製籠原料と發達しゝも、本家本元たる韓國の所産としては退化も亦た極れり、知らずや人は勉めに勉め物は改良に改良さへすれば、何處までも進化するものなることを、『勞働は神聖なり』とは千古に渉りて誤らざる格言なるのみかは、韓國二千年の歴史中、人物、學問、政治第一等と稱ふる鄭夢周は、官、禮部侍郎に在りたるに、田園を好み、圃圃の間に隱れ、自から『圃隱先生』と呼びたるにあらずや、勞働は神聖なり、其の神聖なる勞働中にて田圃に勞働するほど神聖なるものはあらじ、要するに國家の隆替は國民が勞働を神聖視すると否とに依りて分ると▲午後零時、本田博士邸にて勸業模範場及び農林學校の教職員諸君子より午餐を饗せらる▲一時半、竹内道書記官（卷太郎）、小笠原財務官（寛）、三輪總代等の案内にて訪花隨柳亭に

四朔。杭眉亭。

農工商部勸業模範場。

農工商部農林學校。

訪花隨柳亭。

七間水。
華虹門。
華城行宮。
華寧殿。
八達山。
水原日本人の發展。

登る、建築奇古、華虹門に隣り、七間水門の上に立ち、水上には楊柳稀疎、柳を隔てゝ老松亭立し、亭上よりは八達山及び水原の全市街を望み、殊に詩趣あるを覺ゆ、卽ち諸君子と撮影す、亭を下り、觀察府に入る、卽ち百三十年前、李朝正宗の都せんとして建築せしもの、華城行宮と稱へ、建築の雄麗なる韓國第一と稱へらる。華寧殿に謁す、正宗の廟にして、建築壯美、牡丹、芍藥の落英、淸き花崗岩沙の上に散き、却て一入の華潔を添ふ。八達山に登る、城壁山頂を走り、古壘點綴、老松森々として、遂に樹木少き韓中の風物に似ず、樹間よりは水原の全平原を下瞰し、眼界を壯ならしむ▲四時、水原官民の招にて淨土宗敎會所に講演す、來聽者約一百人▲六時、晩餐會に招かる、會者は金道書記官（漢陸）、島村判事（忠次郎）、坪田警視（彰）、水原新報社宮永幾太郎氏、勸業模範場の博士、學士、商人、農業經營者等四十七名△水原は京畿觀察道の所在地にして、農業平原の中心市場となり、古來三南街道の咽喉として、韓人々口七千の都會を作れり、正宗嘗て此處に都せんとし、城を築き、行宮を興し、花柳を植ゑたるを以て、訪花隨柳、今に韓中の一勝地となる。日本人の初めて入りたるは、明治三十五年春、野中末吉氏（福岡縣）にして、同年夏、三輪政一氏（岐阜縣）次で移住し、華城學校なるものを設立し、韓人を敎育する七百餘名、同三十六年、京釜鐵道工事の爲め、日本人の移住者三四十人、旣にして勸業模範場は設かれ、農林學校は開かれ、岩崎男爵は附近に東山

天安。
溫泉溫泉。

農場を經營し、北澤農學士は尙志社農場を興し、今や日本人二百八十四戶、人口一千二百二十一人（女四百八十六）、日本小學校生徒五十二名、居留民役所の本年度歲出入豫算各、三千六百九十四圓四十二錢、八達山に一萬本の吉野櫻を移植し、更に水原の特色たる好風景を發揮せんとて公園期成會なるものを設け、周圍六里の大公園の設計中なりと聞く。

六月十二日（雨）

午前九時半、汽車水原驛發、京城驛よりは予が乘用の爲め天安驛まで特別客車を連接せられたるも、乘用の必要なきを以て、優待を感謝しつゝ客車を水原驛より返送す、會、朝鮮日々新聞社主幹今井氏、予が日本への歸途を釜山埠頭に見送らん爲め、仁川より來會せらる、卽ち同車同行す▲十一時、天安驛着、下車、西山憲兵中尉、小早川財務官、日本人會長田中定四郎氏、稷山金坑の諸君子等、驛に出迎へられ、驛前にて天安日本人會より麥酒、茶菓の饗應あり。天安は三南街道にある米穀類の一市場にして、韓人約八百、日本人三十五戶、人口九十八（女三十六）、去る四月三日、神武天皇祭日に初めて日本人會を組織し、歲出入豫算各、八十四圓。溫泉里より村尾重一、山下義正、笠間參太郎の三氏、天安驛まで出迎へらる、卽ち人力車を馳せ、三里、溫陽溫泉に到る、溫泉の經營者仁川の網戶得哉氏は特に仁川より井上嘉吉氏及び浴婢を派して接待に充てられ、卽ち一浴するに、浴槽は高麗朝の時造りたる幅六尺、長

サ九尺七寸の花崗岩の一枚石にて圍まれ、更に綱戸氏の經營に係る肥前有田燒の陶器を以て湯床を甃み、泉色透明、槽底には無數の白石歷々數ふべく、古の韓人が『其冷如レ雪、其清如レ鑑』と記すもの遂に夸大にあらず、溫度も亦た人體に適ひ、其快云ふべからず、此くて韓半島旅行の最終日に、此の靈泉に浴び、六十日間の旅塵を一掃し去り、心身殊に爽然たる折柄、溫泉場監督藤本榮氏は何くれとなく欵待せられ、連日連夜の集會と招宴とに忙殺せられたるに引き代え、此の如き樂天地あるかと、浴後覺えず韓哥の鄕に入る。溫泉里居留日本人は目下七戸なるが、此夕、七戸主は發起して、溫泉館に晩餐會を開きて饗應せらる、會者は水間憲兵少佐（春明）等十三名▲溫陽溫泉は、百濟の時發見せられ、因て其郡を溫昌と名づけ、後高麗の盛時、溫泉郡と改め、工を修めて衆人に浴せしむ、今日現存せる花崗岩の大石材の一部は卽ち當年の工事にして、六百年前の物に屬す、爾來歷代の諸王は大概行幸せられたるを以て、行宮は築かれ、宮側に駐蹕臺を設けられ、豐太閤征韓の役、兵火に罹り、悉く灰燼に歸したるが、李朝仁祖、再び行宮を築き、英祖は駐蹕臺に三槐樹を植ゑしむ、今は二槐既に朽ちて唯だ一槐のみ存し、葉々鬱蒼として御筆靈槐臺の碑を蔽ふ、近世大院君重修し、今や綱戸氏は韓國行宮の外に、日本風及び西洋風の客樓を新築し、又た韓國駐劄軍は衞戍病院分院を此處に開き、浴客は日夕鶴、雁、山七面鳥等を山野に狩り暮らし、韓半島無二の保養地となる。

溫陽溫泉の沿革。

新湯の花崗石材は李朝宣祖の時の物。

駐蹕臺。

槐臺。

天安。

烏致院。

芙江。

大邱。

三浪津驛。

釜山。

六月十三日（土曜）晴。

午前十時半、汽車天安驛發▲十一時半、烏致院驛通過、淸水步兵少佐、和田警部等出迎へられ、居留民二氏芙江驛まで同車見送らる▲十一時四十分、芙江驛通過、大島郵便局長等出迎へられ、午後零時半、大田驛通過、內藤日本人會長等出迎へられ、大田の寫眞數種を贈らる▲四時、大邱驛通過、釜山日報記者宿南氏、釜山より此處まで出迎へらる▲五時半、三浪津驛通過、釜山商業會議所書記長久納氏、釜山より此處まで出迎へられ、森田旅館女主人は洛東江の新鮎鮓を贈らる▲六時半、釜山驛着、下車、龜山理事官、山岡稅關長、石原民長等出迎へらる▲八時、龜山理事官の招にて釜山理事廳に晩餐會に赴く、會者は釜山官民三十名、理事官挨拶して曰く、當初釜山日報、朝鮮日々新聞兩社の招待なりしに、事實に於ては在韓日本人十餘萬の招待となり、十餘萬の日本人は齊しく歡喜したり、是れ御歸朝に當り、粗宴を設けたる所以なりと、予答辭して曰く、布衣の一老書生、官邊と何等緣故なき獨立の二新聞社が招待に應じ會、渡韓したるに、官民諸君子より無限の好遇を辱うす、不肖何に依りてか之れに酬ゐん、唯だ當さに韓國にて實際に見聞せし所を擧げて日本內地人に知告し、聊か以て日本內地人の韓國に對する見解の參考に供し、庶幾くは以て一人にても多數の日本人が韓半島に移住すること、なるを得ば、或は諸君子が知遇に對する萬分の一に酬ゆるを得んかと。

下關市。
門司市。
博多。
千代松原。
箱崎宮。

門司市。
下關市。

大阪市。

六月十四日（晴）

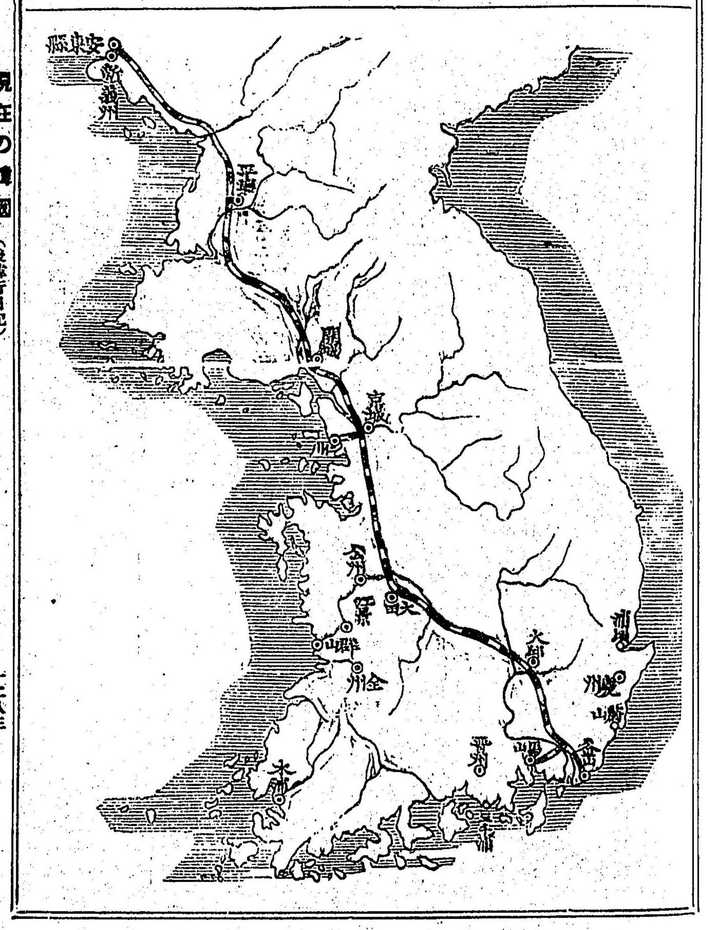
午前十時、釜山敎育會の招にて釜山小學校に講演す、來聽者約三百五十人▲午後零時、釜山官民諸君子の招にて鳴戸樓に午餐會に赴く、會者は龜山理事官、山岡稅關長、石原民長、嶋田民會議長、在釜山二新聞社長及び肥者、敎員、貿易商、水產家等四十八名、宴酣なるや、會、晋州日本人會よりの電報來着、『健康を祝し歸朝を送る』と▲三時、釜山高等女學校々友會の音樂會に赴く▲八時半、汽船惠下山丸乘組、釜山出港。

六月十五日（晴）

午前八時、汽船下關着。九時、門司上陸▲九時十分、汽車門司驛發▲午後零時、博多驛着、下車、福岡鑛山監督署に到る▲一時、千代松原を散歩し、白沙青松の間に龜山天皇及び日蓮大師の大銅像を伏し拜み、箱崎宮に詣で、『敵國降伏』の額を仰ぎ見、且つ北望して賴山陽が『長倚二神威一伏二戎狄一、新羅高麗指揮間』の句を朗吟すること數回▲三時半、汽車箱崎驛發▲六時、門司驛着、下車▲六時半、汽船門司出港▲七時、下關着、上陸▲七時十分、汽車下關驛發。

六月十六日（晴）

午後一時半、汽車大阪市梅田驛着、下車。住友本店に到る▲七時、大阪毎日新聞社長本山彦一氏の招にて堺卵樓の晩餐會に赴く。



六月十七日（水曜）晴

午前八時半、汽車梅田驛發▲午後九時、新橋驛着、下車、歸宅。

謹啓、過去五十日間は不一方御親切に預り、御隆を以て韓半島の大體を視察し得候段、篤く御禮申上候、洛東の煙柳、晉州の紅桃、蘭山灣の帆影、慶州の李花、迎日灣の旭光、大邱の新綠、今更追懷の念に不堪、殊に御地には前後三回立寄り、其都度官民諸君子より加倍の御歡待を蒙ふし、人をして座ろに并州の感を催ふさしめ候。

偖又御地にて勝演致し候節、聊か御參考にまで陳述致し候通り、日本內地人が政治萬能なる韓國中央の動靜にのみ注意し、半島に散在せる小日本個々の實況に留意せざるは、佛蘭西流の植民政策にして、英國流に非ず、隨て根柢の鞏固なる發展方法に非ずと確信致候、元來佛蘭西に限らず、西班牙など所謂羅甸民族の植民地が當初一時は發展するに拘はらず、其後遂に大發展を遂げざるは、佛蘭西同樣の理由に出づるのみならず、西班牙人はマヅル人（同教徒）と敵ふこと多年、彼等は武人的、冒險的となり、覇氣勃々たる折柄、コロンブスの發見に依り、新世界の盛觀は突如として眼前に現はれ來り、戰勝の餘氣に任せ、相率ゐて新世界に移住せし者に有之、即ち戰勝者として弱國に臨み、復た農夫、商人、工匠に非ず、此の如く出發點よりして師農勤勞の氣象ありし英國人が形成せし北米合衆國などの進運と到底比較だにす可らざる實況に有之候、然らば日本人が韓國に移住致し候も、戰勝者として弱國に臨むの風なく、善良なる農夫、商人、工匠として移住致し候はゞ、將來の發展は必期すべく、隨て韓國を利し日本に益し、相互の大利益と可相成と存じ候に付、何卒此儀御紙上に御主張の程只管奉願上候。

偖又諸君子には原稿紙を展べ筆を執らるゝ毎に、我が面前には日本人朝鮮人の外に四洋人の嚴師が起立して我が綴らんとする文章を斧正せんとなし居ることを悟られ度、又我が當局者に於ても、他に對して韓國の日本官府が言論の自由を大に尊重する事實を示さん爲め、各居留地に於ける日本官民間の紛糾に關する事共より新聞記者に退轉を命令するとか、將又居留民間の問題にて新聞紙の發行を停止するなどせず、內々の事は勉めて寬大にし、而も記事苟くも外交に關するものに對しては假借する所なく嚴重に制裁せられんこと希望に不堪、此一點に對しては新聞記者諸君子には眞に國家の爲めとして當局者の制裁に甘受せられ度、此間の消息さへ悟られなば、小生は諸君子の爲めに何んなりとも勞働に服すべく、小生は日本の韓國政治を大成せしめんことを期圖するの外、何等の野心も功名の念も無之候に付、此段は御了承の程願度、御厚情の御禮旁、申添へ候、匆々拜具。

釜山日報社　御中

大同江（鎮南浦附近）

後韓行書信。

明治四十一年五月二十五日（木浦に於て）。

謹啓、韓國旅行中、觀察の有の儘を開陳すべき樣其地方に到る毎に要求せられ候處、是は小生自身の爲めにも研究の一助となり、且つは觀察の是非に就き其地方の人士より敎示を受くる端緒とも可相成と存じ候儘、直ちに該地方と日本內地とを比較し、比較の諸點を講演することゝ致居り候、卽ち一昨二十三日、群山に於けるものは、

群　山。

▲流域八十里ある錦江の河口に近き開港場（左岸）。

▲錦江、萬頃江なる姉妹河に開展せる米產平原（耕地約九萬町步）の門口。

▲此の米產平原には岩崎男爵以下豪族のプランテーション的領地及び經營多し（概するに豪族に非ずんば小作人）。

新　潟。

▲流域一百里ある信濃川の口に位する開港場（左岸）。

▲信濃川、阿賀川なる姉妹河に開展せる米產平原（約一百五十萬石）の門口。

▲此の米產平原には市島氏以下豪族のプランテーション的領地及び經營多し（概するに豪族に非ずんば小作人）。

新潟と群山。

▲河口たる港に沙洲多く、出入不便なり。
▲船は時々相對せる佐渡（島）に避難す。
▲汽船可航の終點に水陸產物の集散中心（長岡）あり。和船なれば深く上流まで溯り得。

以上の如き比較を述べ、次で新潟が背面に大なる米產平原を負ひ、多望なる富力を負ひながら、或る程度までは發展を遂げ、而も人口五萬臺となるや、進步の遲力遲延したるは、港口の不完全なるを主因とすと述べ、尙ほ群山の將來に就き、

一、港口の修築及び設備、
二、拓殖鐵道敷設後、全州平原南部產物の輸出を南方の或る門口（例へば木浦）に奪はれざる用心、及び在來の如く群山に吸收する設備、
三、水產物と日本內地魚市場との連絡、
四、全州平原の水利問題

を參考に供し申候。

又今二十五日、木浦にはて、

▲河口たる港に沙洲多く、出入不便なり。
▲船は時々相對せる古群山（島）に避難す。
▲汽船可航の終點に水陸產物の集散中心（江景）あり。韓船なれば深く上流まで溯り得。

函館と木浦。

函館。

▲北海道に於て日本內地に近き一突角にある開港場。
▲突角より更に突出せる小半島の岩山の蔭にある水深き港。
▲「函館、々々」とて日本內地人には多く知らる。
▲財力は新開の港よりも多し。
▲汽船も國道も鐵道も必らず集るべき地利を有す。

此く比較を述べ、次で函館が右の如き大なる地利を具有しながら近年悲境に陷りたるは、當然函館の勢力範圍に歸すべき貿易及び事業を他に奪はれたるにあり、英國アームストロング會社の計畫も三井家の投資も室蘭に奪はれたるは、函館人士が餘りに順便なる地利を有したりしかば、唯だ過去の繁榮を夢みて油斷し居り、因循爲す無かりし間に、諸般の事業を進取的なる小樽と室蘭とに奪はれたるに因れりとの實例を參考に供し、依て木浦の將來を造くる

木浦。

▲韓半島に於て日本內地に近き一突角にある開港場。
▲突角より更に突出せる小半島の岩山の蔭にある水深き港。
▲「木浦、々々」とて日本內地人には比較的多く（群山などよりは）知らる。
▲財力は新開の港よりも比較的多し。
▲汽船も國道も鐵道も必らず集るべき地利を有す。

群山。

全州平原。東山農場（岩崎男爵所有）。細川農場（細川侯爵所有）。

方法にも說き及ぼし候處、木浦の實業家諸氏には「苗浦（全羅北道の海灣）の出來は木浦の獨占なりしに、全く因循せる間に群山に奪はれました、今日は時宜に適せる御訓戒を得ました」と交も〳〵打ち語りたるを聞き、小生には取綱りも無き講演に依り却て自身の爲めに好個の研究資料を得申候、先づは群山及び木浦の地位に關し御參考迄に此段御書送申上候、匆々拜具。

五月三十日（全州平原に於て）。

謹啓、錦江を下り群山に出で候處、時間勵行と二十二貫目の大兵の事とは韓國にも傳はり居るものと見へ、官民諸君子には「時間勵行の主唱者來れり」とて小生に對する各集會は定刻通りに行はれ、又旅館若富に投じたるにドテラもフランネルの寢衣も身體に適ふものを新に調へあり候、旅館の主人惡筆を需む、惡詩を惡書して與へ申候、

一道錦江江作ノ巴。高低人屋巷三叉。新衣充得ニ綈袍一好。西入ニ群山一似ノ返ノ家。

群山より木浦に渡航し、更に群山に引き返へし、一昨二十八日全州平原に入り、唯今東山農場（岩崎男爵所有）、細川農場（細川侯爵所有）に來り候、細川男爵の令弟隆恒君、同子爵の令甥清若君に御面會致候、小生は沃溝府尹（群山知事）が特に乘用にとて遣はされたる輿を韓人四人に擔がしめ、フロックコート儼しく細川農場に乘り入りたるに、兩公子が紬の單衣にヘコ帶の儘にて最と心安く應接せられ、主任黑田氏が熊本流に釀し〻手作りの燒酎なりと供せ

全州平野ニ於ケル日本人ノ農事經營

全州　岩崎男　児島　細川侯　吉田　中西　眞田　矢橋　藤井　中田　川崎　稲田　井上　熊本　中西　島谷　宮崎　稿本　佐藤　群山　笠井　金子　中柴　木庭　大炭

印農場例ハ細川侯ノトシテ細川侯爵家ノ農場ノ如シ

られたるに會ひ、兩公子及び黑田氏に對し自己の份裝を顧み實以て心中に大慚愧を感じ候、御承知の通り小生は份裝などには無頓着の性質にて、全く一介の老書生を以て自ら居り候處、韓人に對しては書生風大禁物なりとの忠言を受け此忠言の効能歴然たる件々を各地にて經驗致候より、頓に份裝など儼しく致せし義に有之、現に昨日も全州府にて韓人の進士來談、小生が地圖を披き居たるを見、同人は此處が臨陂郡なり、此水は萬頃江なり、群山の韓名は群倉なりなど〻指し示し候より、小生は紫鉛筆を取り、

大野開ニ天斬。臨陂萬頃香。
千帆影連續。一一入ニ群倉。

と書き似じたるに、進士は聊か感服の色を顯はし、さて此の如き大先生（？）なれば定めて從者

在韓日本人に對する概觀。

秩序的進歩の端緒。

も多かるべしと思ひけん、直ちに『公隨者更有二幾人一』と質問致候、即ち隨者の數とか仮裝の如何とかにて其人を評價する事實に有之候に付、韓國の内陸を旅行し親しく韓國の官民と出入し何にくれと調査せんことを期すれば、外觀の堂々は缺く可らざる義に有之候、然かし是にて韓國の事物の何につけ外觀、虚飾に拘泥する一端を御了承有之度候、匆々拜具。

六月十日（鴨綠江畔に於て）。

謹啓、小生も五十日間の韓半島横斷及び縱斷の旅程を了り、半島の極北より鴨綠江を渡り、安東縣に出で、唯今安東縣より引返へし、歸途は京釜鐵道沿線の名所舊蹟を探り、本月十七日早稻田大學定期試驗の當日迄に歸京の豫定に御座候。偖茲に韓半島の旅行五十日間の見聞を總括するに、大小の日本人所在地到る處不景氣の聲を聞かざるなく、又小生の來着を期し不景氣回復の方法を聽かんと、小生に語らずして各地講演會の開會を豫告し、又其地發刊の新聞紙は何レも社說を掲げて其地發展の方法を需むる抔、如何に高屋の小生なりとて是には實以て閉口致候、乍然半島に於ける「不景氣々々々」の聲は、日清戰役特に日露戰役前後に於ける一時的奇利が今日となりては博し得られざるに總因するものと存候に付、戰役に伴へる泡の如き現象は全く結末を告げ、秩序茲に定らんとして、而も今や其過度期に際すること、て、「ア、何うしたら好からん」と打ち惑へるより起生せる小恐慌に過ぎず、然れば大局より

觀下すれば純然たる進歩なり、親より喰はせて貰ひ好きべゝ（衣）を着せて貰ひ無意味にて小學校に通ひたる時代は過ぎ去り、男子なれば中學校に入り、女子なれば高等女學校に入り、我レ商人とならんか軍人とならんか醫師とならんかと一身の專門を考へ起し、將た又嫁入先を案じ居る年齢とまで發達せしものなれば、全く喜ぶべき現象なり、健全なる秩序に就くべき順路なり、新開地の歷史に一回は必らず出會ふべき點に達したるものなり、韓國に於ける日本人の眞成なる經營は今日より發端すべしと正しく認識致候、戰役始末結了の爲め最も打擊を被ふりたるは開港場にては仁川、内陸の開市場にては平壤なりと傳へ聞き候に付、兩地に入るや直ちに小學校生徒の增減を問合せ候處、仁川は昨年より增加して一千二百名に餘り、平壤は小學校新築設計の當時、生徒百七十名なりしに、今日新築落成せざるに四百三十名に上れりと答へ申候、然れば浮動人口が一時の增減はあれ、家族的永住的人口の增加せしは小學校生徒の增加するを見ても反證せられ、尙又各地に入る毎に先づ最老人の年齢と其孫の數とを問合せ候處、大概の地には七十歲以上の老人あり、其孫も一二人は同居致す事實を承知致候、要するに韓半島の日本人は今や秩序的進歩の端を啓きつゝありと斷定致候。

偖又「不景氣々々々」の喊聲の間に以上の如き觀察を下し、且つ時々將來の發展に關する卑見を陳述致候より、『半島經營の福音』とか『頭腦明晰、觀察鋭利なる自稱高屋を歡迎す』など云

ふ如き言辭を繰回へされ、此く油を注ぎに注ぎて煽上げられたるより、憐レ煽に乗りて長廣舌を弄びつ講演せし地方とても不少、同情に堪へざるは此の如き講演を連日々々其紙上に掲載するの已むを得ざる各地新聞記者諸君子に御座候へ共、平壌實業新報記者は曰く、「御蔭にて當分の間紙面が塞ります」と、御蔭か迷惑か得て辨ず可らずと存候。

小生歸途は全く京義及び京釜鐵道線に依るべく候に付、最早暴徒に出會ふ氣遣などは萬々無之候へ共、茲に改めて野狐禪學家に相伺ひ申上度は、暴徒に出會へば夫こそ最後にて、其命數は下の如きものに非ずやとの義に有之候、即ち先日忠清南道旅行中、案内の森氏會一羽の雉を見出し候處、會、公州より同行の山崎氏獵銃を携へ居り、會、同じく案内の松木氏は平生銃獵に堪能の人とて山崎氏の銃を取り直樣見事に射止められ候、即ち第一の會、1/3と第二の會、1/3と第三の會、1/3とが綜合せしより諒數となり、件の雉は1/3＋1/3＋1/3＝1の境に會ひて恰も打止められ、此諒數に出會はざれば天空地濶羽を擴げて翔け渡るべき壽命をば茲に敢なき最期を遂げたるものに有之、此の如く暴徒に出會へば其こそ百年目なりと存居り候へば、禪など云ふエラキものを學ばずとも數學にて大悟徹底し得らるべきものに無御座候哉、元來禪學とは果して數學より高尚なるものに候哉、此儀伺上候。

數理とか經濟とかクド〳〵敷申上候に付、途中の惡吟一首差出候、元來平生より愛誦するは、

長槍大馬亂雲間。不レ識何侯述レ職還。淪落書生無二氣燄一。雨袗風笠度二函關一。森春濤先生夕雨霏々燕子飛。清和門外送二春歸一。東風不レ道仙凡別。亂下二宮衣一點二布衣一。伊藤聰秋先生の兩首に有之、兩先生とは其御生前に於て面知だに不致候へ共、兩首は愛誦否な拜崇の極に達し、先年淡路教育會より招かれ候節にも、爺媼が京都六條に到りて本願寺樣に參らず讃岐に入りて金毘羅樣に詣らざる間は何にか氣が濟まざると同樣に相感じ、首として聰秋先生の故宅を洲本に訪づれ候處、翠竹一叢、鳴門蜜柑四株、明窓淨几の下、遺愛の詩書と瓢と列べるを見、覺えずア、此處にて先生が大藏省七等屬兎官後、赤貧の餘リ梅干を肴に此瓢より酒を酌みつ彼の傑作を賦せられたるものかな、當時の大藏大臣の姓名が人口に膾炙するは其身後五十年位に過ぎざるべきに、先生の姓名は支那文學の世界より絶滅せざる以上、永代不朽なるべきかと思へば思ひ回らす程に、人生布衣の愈、樂むべきを知り、又函嶺に入り春濤先生の句を故關の雨色に想起する毎に、當時の何侯も何伯も早く既に其骨と共に世より朽ち盡きたるも、『森雨袗』の名は永代不朽なるかなと感じ詫ぶる毎に、先生は氣燄なしどころか、吾々淪落の書生の爲めに萬丈千萬丈の氣燄を吐かれたるものと、益書生の貴きを悟り申候、偖小生先日京城に入るや、韓國皇帝より謁見を賜はりたるのみか、優渥の御語すら賜ひ、顧みて胸に一個の勳章だに掲ぐるものなく、事實上、純然たる布衣なるに、謁了はり京城を去るや、

鐵道管理局は小生乘用の客車を特に連接し、此車は西園寺首相來韓の際其乘用に充てたると同一式の露國戰利紀念車なることを聞き、開城（高麗の故郷、雅稱松都又松關）に入らんとするや、兩先生の句を車中に朗吟し、且つ韵に次ぎて左の惡詩を得候、惡詩も大惡詩に有之候へば親切に御斧正有之度、小生は書生たり文人たる我兄に對し特に此詩に限りては親切に御斧正あるべき樣要求するの權利あること、私かに自信致居候、

謁來韓帝二玉階間。振盡二布衣一知命還。淪落書生仍氣烱。擬二佗丞相一入二松關一。

韓半島を去り安東縣に入るや、又虛名の爲めに來り集まる者不少、群がる歡迎人の間を「オイ志賀」と呼ぶ者あり、韓半島にて煽てに煽て上げられ氣烱燃ゆるが如き此大先生に對し「オイ志賀」とは一服の清涼劑なり、否青天の霹靂なり、覺えず振り回へり見れば、一個の禪僧、風笠を脱ぎつ「忘れやすまい俺は中村（海田）ダヨ、お前が來たことを聞いたから五龍背（長白山下）から下つて會ひに來たのよ」と、卽ち三十年前の故人、意を本國に得ず、髮を削りて長白山下に隱れ、今、故人の來遊を聞き、走せて安東縣に來りたる者、何等の多情ぞ、彼レ「お前に見せるものがある」と出し示すらく、

清風何處刎川來。憶到二當年一共小孩。可レ莫桑田蒼海感。歡迎隨レ衆我顏開。

翌天明、彼レ送りて鴨綠江の彼岸に到り、遂に飄然として復た去る、我レ依々顧望去るに忍びず、仰ぎて長白山を望めば白雲縹渺、我が地歩より高きこと幾千仞、今にして稍、禪の趣を會し得、卽ち彼レが詩品の清高なるに比べ我が詩の氣燄千萬なるを悟り、是にて韓半島の觀花旅行に關する書信に筆を絶ち可申候、匆々拜具。

▲安東縣。

△明治九年、是より先、清國政府は「邊外」と稱へ、治外地方と見做せしも、山東省飢饉の際、同省沿岸の人民漸く移住したれば、安東縣衛を大東溝に開き、此年、大東溝より今の處（沙河鎭）に移したり、當時移住人凡四五戸。

△明治廿七年、日露開戰。六月、日本は沙河鎭に軍政を敷く。十月、日本人の渡來者一千人に餘り、「大和町」を開く。十二月、日清學堂を開く。爾來日本市街に共同便所を設き、病院、屠獸場、火葬場、避病院を設く。

△明治廿八年、日本軍政署は土地三百二十五萬餘坪を清人より買收し、別に日本人墓地一萬餘坪を八道溝に買收す。

△明治廿九年、鴨綠江の洪害に備へん爲め、四月、日本市街に防水築堤工事を起し、七月竣成。河野正次郎、式村茂行政事務を日本領事館（五月開廳）に引繼ぎ、軍政を撤廢す。清國安東縣衛。日本人を縣知衛門顧問に聘す。

▲五龍背雜詠（五首）。　中村海田。

温泉效驗著。猶宿醉將醒。妙觸宜明旨。如何使我靈。
我詩難レ未就。天鼓聊堪遶。鳳凰隱雲霧。遠山呼太蒼。
經行何處是。楊柳板橋頭。吐月暮山碎。驅人珠滴幽。
北山雨限時。南山雲俄起。宛有古調吹。笑指青天上。
何邊叫杜鵑。對月發二吟興一。獨座最堪笑。喫茶一味禪。

時代に後るゝ勿れ、時代を率るよ。

『木浦新報』愈〻發展し日刊に改めんとす、滔々たる流俗に從へば、固より祝電を發するか、さなくば祝辭を贈らざるべからず、縱し流俗に從はずとも、暫時の人氣を博し一寸なりとも好イ子と思はれんことを望めば、祝電を發し祝詞を贈るべきは固より然り、何となれば凡そ世の中に祝電祝辭ほど簡單にして容易に綴り得べきもの無ければなり、況んや新聞紙の如き先方に利器を有するものに對して、祝電將た祝辭を寄するは先方よりは自己に利益する所必定なればなり。然りながら偽りに『木浦新報大々的發展を期せんとす、尖れ木浦は南韓に於ける重鎭なり、背に榮山江の大農業平原を控へ、陽に水産の豐富なる多島海に面し、加ふるに多利なる濟州島は指呼の間にあり、木浦の前途多望なる測るべからず。此の多望なる木浦人士が唯一の機關たる『木浦新報』が愈〻奮勵し益〻發展して日刊に改刷するに當り、誰レか其の前途の多望なるを祝せざる者あらんや、慶して當さに祝すべし』など〻書き立て寄贈したりとて、抑〻何の裨益する所かある。元來祝辭とは如何なるものぞや、避病院將た監獄の開場にあらざるよりは、人誰レか何事にも御目出度しと祝せざる者あらんや、然るに誰レ彼も祝辭を述ぶるに至りては、冗の極、繁の極と云ふべく、世道人心に何等の裨益も無く、社會の進運上に些しも貢獻する所無きものとす。然れば祝辭の如き虛文、祝辭を贈るが如き虛禮は予の此年全く取らざる所なり、況んや新聞、特に韓國の如き新開地にある新聞の如きは、舊社會の虛文を改め、此の如き舊日本の虛禮を正し、其の新鋭英爽の氣象を以て日本内地の陳腐せる禮文を改革することを是れ任とせざるべからず、苟くも新開地にある新聞にして此の決心なく此の抱負なく、徒らに内地の陳腐せる禮文に只管是れ習はんとすれば、新開地にある新聞の用果して何處にかあらんや、將た『木浦新報』の如きは發展せざるも可なり。是に至り一部を主筆相川保三君に寄す、祝辭を草するは易し、祝電を發するは更に易し、況んや君と予とは殆んど二十年間に亘る因緣もあり、將た昨年五月、木浦の諸君子より無限の厚情を蒙りたるは、予の永年記憶せざるべからざる所、此の相川君が此の木浦人士の爲めに經營する新聞にして今回發展するに當り、予の衷心は誠に欣喜に堪えざる所、而かも尙ほ且つ勞力の最も容易に其の事の最も簡單なる一祝辭一祝電だに寄することを敢てせざるものは何ぞや、私かに相川君に期し木浦人士に望む所更に大なるものあればなり、君や時代に後るゝ勿れ、木浦の知己諸君子や時代を率ゐる時代に先んぜよ、敢て望む、老朽せる内地人士の擊に做ふ勿らんことを。

韓國瑣談。

統監政治。

韓國にて日本人の發刊する新聞紙十四五種ある、其内統監府の機關京城日報を除く外、殆んど皆な統監府に反對將た不滿ある者と見做して可なり、在韓の新聞紙の聲調は大體に於て非統監府的なるが、偖て韓國の經濟と重大の關係を有する大阪（韓國經濟の中心は大阪にあり、韓地に於て大阪を距るれば距るゝほど日本品の價高し）の新聞紙は何レも統監政治を酷言酷評する、又た東京の新聞紙の多數も大體に於て非統監府的と見做される。此の如く韓國將た日本内地の多數新聞紙は非統監府的なり、殊に予を韓國に招待せし主催者の朝鮮日々新聞も非統監府的なるに拘はらず、予一人は、誠に無勢力にして腑甲斐もなき味方なれども、統監府否な日本の韓國政治の味方たることを公言する、是は一は自家の立言に對する責任と、一は日本國家に對する國民の義務として、斯くせざるを得ざるなりと自覺する故である。

日露戰役の初期、海州灣（西韓に於ける當時の日本海軍根據地）より予が寄送したる書面は、當時の東京新聞紙に掲載になりたるが、卽ち

日本が韓國を經營せんと欲せば、先づ日本第一流の大人物を派遣すべし、英國がカーズ

シ卿を印度に駐在せしめ居る實例に鑑むべき事。

次は韓國の地方小官廳に至るまで日本の警部、巡査を雇聘せしむべき事。

次は侍衛兵を除く外、韓國の軍備を廢止し、其の費用を以て隄防、灌漑、排水、測量、道路、造林、其他內陸開發の事業に用ふべき事。

以上の如きは日本人が誰レにても同じく考へ居たるものと見へ、其後伊藤統監の就任、日本警察官の雇聘、韓國軍備の廢止、內陸開發事業の着手など、偶然にも予の寄送せし書面と暗合したのである。其後、明治四十年、太皇帝の海牙密使事件起るや、予の前韓行日記中の卑見も新聞紙上に掲載されて居る、卽ち韓半島の內陸に大田の如き、江景の如き、鳥致院の如き、農業經營の市場たる日本都邑が隨處に起り、此の如き獨立自營の小日本が飛石の如く半島に點在すること丶なれば、百の太皇帝、千の海牙密使ありとて何の事かあらんや云々と。

統監政治の成績。

以上の如く日本の韓國政治は、日露戰役の初期、予の寄送したる意見と微頭徹尾暗合し居り、更に又た韓半島に點在する小日本の發展に就き、統監府は如何なる方法を實行せしやと問ければ、民團の制を設け、之れに徵稅、起債、企業の權能を授け、內陸に於ける日本人の膨脹に資せん爲め不動產の收得及び保障を確實にし、小日本に於ける小學校を保護し、其他韓國政府の日本官吏をして農業、水產、造林に關する諸施設を銳意實行せしむるなど、小日本の發展を

促すべき施設は著々と實行して居る。既に此の如くなれば、何事も偶然ながら予の立言通リに暗合し、且つ著々實行され居る以上は、立言の責任としても、予は日本の韓國政治の正面の味方たらざるを得ざる義理がある。

更に伊藤統監其人に就ても亦た然り、予は伊藤博文と云ふ一個人が成功するも成功せざるも痛痒相關せず、然かし横より見るも縱より察するも、伊藤博文其人は世界に對する日本國の代表者である、日本の大人物である、伊藤其人すら韓國に臨み日本の統監政治に不成功なりしとあれば、取リも直さず日本の韓國政治の不成功である、日露開戰の大義も滅却し、世界に對し日本人は武力腕力のみの長者にして、文治上には能力なしと廣告するものである。然れば予は此の唯一の立場よりして、日本の統監政治の味方たり、否な日本國民全體は何卒して統監政治の味方たらんことを切望する。

統監政治不評判の源因。

統監府は韓國政府の組織を改良し、日本と殆んど同一の官制を施さしめ、次官以下多數の日本人官吏を任せしめ、司法制度を新設し、地方官の誅求を禁止し、交通機關の改良及び擴張は殊に見るべく、佛蘭西人がチュニスに於て二年間に此迄の事業を擧げたりやと云へば、決して日本の韓國政治に及ぶべくもあらずと事實よりして確信する。此の如く政治の方針は吾々が理想に近く、又た統監府の成績は見るべきものあるも、而かも大多數の新聞紙なり國民な

りに不評判不人望なるは如何の理由ぞや。之れを一言に盡くせば、統監府今日の不評判不人望は、屬僚の不謹愼より由來せるなり。此等の官吏にして事業を圓滿に擧げんと欲すれば、先づ各個の城府を去れよ、府内にありては日本官吏は相互に排擠せず、相互に暗鬪せず、居留日本人に對しては、『退韓令』なる利器を振りて威壓的態度を以て有志家に臨まず、否な力めて有志家の言を聽き、居留民團の問題などにて新聞紙の發行を停止せず、居留民とは冠婚葬祭にまで親交し、公平なる立說を容るゝのみならで、自から餌りて之れを需め、統監府の重事は其の機關新聞に發表すべきも、他の資料は一樣に公平に各新聞に配布し、官民相交り相助けなば、唯レか復た日本の韓國政治に同情を寄せざる者あらんや。

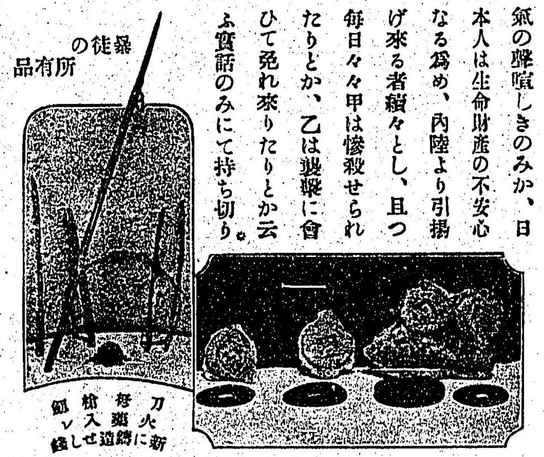
暴徒。

韓國内陸旅行の危險。

暴徒。

韓國各地に暴徒蔓延し、種々の惡影響を日韓兩國人民に及ぼせるは誰人も承知する所である。予が錦江を下る際には、護衛の武裝巡査四名、案内日本人二名、寫眞師一名、見送日本人二名、出迎日本人二名、韓人馬夫八名、總計二十人の一隊にて旅行し、各地に守備せる日本軍隊中に旅順口攻圍軍にありたる將校も多かりし爲め、此等の人々より種々好意を表し呉れられ、予なればこそ無難に錦江を上游より下り得たるなれ、普通の人にては安心して旅行は出來ず、從前の如く日本商人が内陸に入り米、大豆を買入るゝこと不可能なるより、各地に於ける不景氣の騒喧しきのみか、日本人は生命財産の不安心なる爲め、内陸より引揚げ來る者續々とし、且つ毎日々々甲は慘殺せられたりとか、乙は襲撃に會ひて免れ來りたりとか云ふ實話のみにて持ち切り。

暴徒の無影響。



江景（錦江中游）にて同地方に歸農せる室原前代議士來訪せられし際、同君には、此の如く危險なる實況にては、日本人は何事も手に着かず、何んとかして日本内地の世論を喚び起されたしと大に慨嘆せられたれば、予も、然らば僕が途中にて殺されでもしたるなれば、幾分か世上の注意を惹き起し、暴徒の根本的討伐も速かなりしなるべしなどゝ物語りした。

偖て暴徒の惡影響と云へば、差當り（一）韓國内陸と各開港場との取引の連絡殆んど杜絶したる爲め、日本人の商業上に大損害を被らしめたる事、（二）日本の統監政治の鼎の輕重を韓人に問はしむるに至るべき事、（三）第三國に對し日本の韓國政治の拙劣なるを示すに至るべき事などは、其の最なるものである。然りながら今日は暴徒蔓延の惡影響を敷へ

立てる時機などでない、其の鎮壓の方法に至つては、軍隊行動を以て著々實行中なれば、固より鎮壓し得べく、此くて最も考ふべきは、軍隊を引揚げたる後々の事である、何んとなれば(一)仮の食へざるより起る火賊、草賊は今も昔も相違なしと雖も、今日は更に優勝劣敗の競爭劇甚となり、物價は騰貴し、生活は困難なるに、拘て加へて韓人は新輸入の奢侈を好む爲め、生活は一層困難となれる折柄、新政治の實行と共に、兩班（ヤンバン）（士族）は事實上廢止せられたるを以て、生活の困難を訴ふる者日々に增加し、(二)二千年の國土が小國たる日本の奴隷となりしと考へ居る舊式の儒生あり、國權、祖國など〻呼號する新式の學生あり、然れば所謂暴徒は鎮壓し得べきも、今後留意すべきは、今日の暴徒のみに止らざるべし。

暴徒巨魁よりの辭令書

暴徒鎭撫の光明。

然りながら這般今後の暴徒とても鎭撫し得らるべき光明ありと信ずる。道路の開鑿（各道に起工中の）、水道工事（大同江綾羅島等の）、無煙炭の採掘（平壤松羅山の）、鐵道工事（京義線改修及び鴨綠江架橋工事等）に多く韓人を使用し、否な韓人を使用せざるを得ざるは、取り也直さず韓人に職業の途を與へたるものである。是等は韓國政府將た統監府の方針にして、至極時宜に適へりと思ふ。更に又た全州平原にて、日本の豪族が農業を經營し居れるが、韓人の既墾田畠を買收し、而かも舊主人の韓人は其儘小作人となり、韓國官吏よりは誅求をも受けず、日本人の巡査あり、警藥あり、生命財產最も安全となりたれば、韓人は却て嘻々樂々とし、更に又た日本豪族の經營地に來れば、夫レ〴〵の職業に有り付き得べく、現に藤井（寛太郎）農場の如きは、韓人は事務所の周圍に移住し來り、村落すら起らんとする現狀にて、今回も十二町の新道を僅々百二十圓にて開鑿し得たるは、全く韓人を使用せし結果なりと藤井氏自から云ふ程なれば、日本人が事業を韓國に經營したりとて、韓人の職業を奪ふなどの事なく、否な木浦にあれ、群山にあれ、仁川にあれ、何レも一寒漁村が開港場となり大なる日本市街を創起したる邊には、韓人大多數に集ひ來りて定住し、各職業に有り付くを以て、日本人の移住は彼レを利し我レを利すること明白である。然れば物價の騰貴、生計の困難に伴ふ不平不滿は、韓國人民の小部分なる兩班とか儒生とか上流社會のみに止まり、中流以下の人民

は遂に困難せざるべしと信ず。

難問題は兩班と儒生（新政治にて免官となりし官吏をも包含す）の處分なり。然りながら凡そ社會進歩の行路として、徒食者が長く安樂の儘に生活し得らるべき筈にあらざれば、兩班者流が自活の途を立てざる以上、競爭場裡に劣敗すべきは當然なり。然れば彼等が今日こそ在來の隋力に依り、幾分か勢力を有すれ、永久の間に國民を率ゐ將た又た暴徒を使嗾するまでの勢力を連續し得べきものにあらず。更に又た儒生に對しては、唐虞三代の教は民を安んずるにあれば、卽ち東方の聖人來りて民を安んずる事共を了解せしむる樣の途を取れば、是れ又た夫レ〳〵慰安し得らるべしと信ず。要するに目下の所謂暴徒に對しては、最も猛烈なる威壓手段を加へ、其の根柢を剛絶し、兼ねて良民には能ふ丈ケ職業を授け、韓國各學校の倫理教育は『勞働は神聖なり』との趣旨を第一義に執り、更に又た儒生に對しては、唐虞三代安民の事共を以て慰安すれば、庶幾くは韓國を永遠に統治するに足るべしと思ふ。

東洋拓殖會社。

東洋拓殖會社。

韓半島の面積一萬四千方里、人口一千二百萬、此の一千二百萬の中、少くも一千一百萬までは農業者である。然れば常識より判斷するも、韓人が如何に大呆痴の骨頂なればとて、廣大なる『荒蕪地』を其儘に棄て置く筈がない。大邱附近にて數年間農事を經營し居れる澁澤周藏氏（男爵の同鄕人）曰く、ア、此の如き肥沃の土地を其儘に打棄て置くかと、涙の滴れる如き荒蕪地は恰かも人を誘ふ魔女の如きものなり、降雨季に入りて化物の正體を現はすなり、此く云ふ我レも亦た嘗て此の魔女に化されたる苦き經驗ある者なりと、又た曰く、韓人が種播の節、多量に種を播き麥などを密生せしむるより、其惡を改めしめたるに、何んぞ知らん我レこそ惡にして、風多く空氣乾燥せる韓國にては、麥を密生せしめざれば風に吹き倒さるゝもの多く、初めて韓人が種を多く播くの賢を悟れり云々と。予は大邱歡迎會の席上にて、此の澁澤氏が實驗談を腹藏なく吐露せられ、予に聽かしめられたる瞬間時こそ、實に韓國移民問題に對する予の懷抱に警鐘を撞れたる如き心地となり、爾來日本人の開拓し居れる荒蕪地を巡覽する毎に、從前に倍する注意を以て種々の方面を見聞し、其の結果、所謂荒蕪地開墾の爲め日本の小作人を一度に多數招徠するは、不利益なりと云ふことを確信するに至つた。成程細川侯爵の全州農場なり、岩崎男爵の東山農場なり、藤本農場なり、其他日本人の組織せし各農業會社なり、投資金に對し何レも年一割幾分の利益あるは、韓人の既墾田畑を買收して經營し居れる故である、榮山江畔に於ける岩崎男の荒蕪地開拓、洛東江畔に於ける村井吉兵衛氏の荒蕪地開拓は其の成功までには未だ多大の資金と長久の歲月とを要することは誰人にも判る。

右の如き次第なれば、東洋拓殖會社が資本金一千萬圓を一時に放ち、是にてドット大仕掛に經營することなれば、存外速かに成功すべしと雖も、此の如き危道は國家の保護を受け居る同會社の取るべき途にあらざるは誰人も承知する所である。然らば拂込金額二百五十萬圓しきの小費額を以て、日本より多數の小作人を招徠し、少くも二年間此等多數の小作人を衣食せしめ置かざるべからずとは算盤球に合はぬ話なりと信ず。然ればとて苟くも東洋拓殖會社として國家の保護まで受けたる以上は、個人經營よりは特別せる事業を選ばざるべからず、然ればとて當初より大なる水利工事、堤防工事まで與して經營するには大資本を要すべし、一個少壯の藤井寛太郎氏すら、全州平原に七里の水道を鑿たんとし、既に蒸汽水揚機關を注文せし今日、東洋拓殖會社としては、夫レ以上に出でざるべからず。然れば個人經營の爲し能はざる所にして、而かも半國家的會社に相應しき事業こそ、實に東洋拓殖會社の先づ選ぶべきものなれと信ず。ソハ日本移民奬勵の機關を疾く設置せられたしと云ふ希望である、平たく云へば、餘リ多く手數料を要せざる移民周旋機關である、目下日本人が韓國移住の一大障碍は、完全なる周旋仲介機關の缺乏である、完全なる周旋仲介機關ありて、此の機關が韓國移住の東道の主人となり、指導、土地選定、測量、製圖、農具の貸與購求、種子の供給などを周旋し、此くて本部の外、

日本移民奬勵機關設置の急務。

釜山〔如何にしても釜山に上陸せざるべからざれば、此處に一支部を置くべし。〕
大邱　洛東江平原の中心
大田　內陸農業平原の中心
鳥致院　內陸農業平原の中心
水原　內陸農業平原の中心
木浦　榮山江平原の門口。
群山　錦江平原の門口。
平壤　大同江平原の中心。
北韓に一所

此の四所の內、一所若くは二所を選ぶべし。

以上農業上の要地々々に件の機關を設置すれば、移住者の幸福は如何許りかと思ふ。尤も東洋拓殖會社が以上しきの事業のみに止むべからざるは誰人も承知すと雖も、唯だ予が韓國內陸旅行中に氣付きたる點のみを申すのである。

疾く實行すべきもの。

疾く實行すべきもの。

韓國の現情は唯今までにて大略申し上げたり、然らば予が旅行中、氣附きたる件々にて疾く實行せられたき事を申すべし。

樹根の掘取を禁ずべき事。

樹根の掘取を禁ずべき事。

韓國の國土を全體より破壞するものは洪水である、而かも其の主因が山林の荒廢にあるは、申し上ぐるまでもなし、殊に南韓に於ては滿望赤裸々の花崗岩將た片麻岩の坊主山のみである（文人畫の皴法として至極の趣あれども）。故に植樹、造林（禿シバリ、白樹、明石屋樹、櫟、落葉松最も可なりと信ず）は、急務中の急務である。然るに如何に温突用の燃料に大缺乏の現情なりとて、樹ノ根の先まで掘取る事を政府に於て禁止せざる以上は、權兵衛が種播きァ鴉が掘じくる其儘にして、植樹も造林も効能のあつたものにあらず、土壤は壞け、山嶽は崩れ、到底始末におゑざれば、一方より植樹すると同時に、一方には法律を發布して、樹根の掘取を禁止せざるべからず。成程一時は民情に適せぬとの苦情も起るべけれ、結局民生に利益あるが上に、平壤松羅山の佳良なる無煙炭も販路に困難し居れる今日、温突用の薪にして缺乏する以上は、韓人とても漸く此の石炭を燃料とする工夫を發明し、以て温突其他に使用すべく、然らば（一）平壤炭は販路を發見し、（二）山林の荒廢は豫防せられ、（三）其間に植樹は愈〻生長し、（四）洪水の慘害は減じ、（五）國土の崩壞は捍止せられ、（六）所謂荒蕪地は少くなり、（七）農業の生産高は增加し、此くて貧弱なる韓國を全體より富ましむること、恰かも滋養物を飲食して貧血を漸癒せしめ、何時の間にか血色好く丸々と肥え太らしむると同樣となるべし。

粃取に蓆を使用せしむべき事。

粃取に蓆を使用せしむべき事。

韓人は米、麥の粃を取るに地面に敲き〳〵て玄米、玄麥とするを慣習となせり、固より地面を清淨に掃除し、其上にて敲くことなれども、如何に掃除を盡くせりとて、元々地面の上にパク〳〵と敲き附けることなれば、砂や小石の米麥の中に雜り居るは固よりなり。穀物商の社會に韓米、韓麥の最弱點として數へらるゝは、此の如き砂、小石の多きことにして、殊に此の如き麥もて飼養すれば、軍馬の胃腸を傷ふこと甚しと、其の筋々の最も忌む所となつて居る。然れば地面の上にて敲かず、蓆の上にて敲きたる米は、一石に付五十錢宛の高價にて買取る向もある。成程數百年來の慣習でもあるし、又た蓆一枚の製作なりとて韓國農民目下の經濟狀態にては容易にはあらざるべきも、然りとて地面の上にて粃を取るなどゝは、世の經濟の進歩上、疾く廢止せしめざるべからず。要するに粃を取るに蓆を使用すべしと、政府より訓令するは現下の急務なりと信ず。

通學生徒の乘車賃を免除する事。

通學生徒の乘車賃を免除する事。

京釜鐵道の天安驛午前十時四十四分發の列車に十一二歳の小兒が一人乘車した、父は豆腐屋にて、自分は鳥致院の小學校に通學する者なりとぞ。偖て此の汽車は鳥致院に十一時二十六分に到着するのである。是より先、鳥致院の小學校參觀の節、課業の時間割が午後より開始

し午前の日程皆無なれば、校長に質すと、各驛より上り下りの汽車の時刻上、午後に入らざれば生徒が打揃ふこと能はざれば、已むを得ず午後より教授を開始するなりと答へたるは、今にして成程なりと想ひ起した。ナント此の如き新開の不便なる地方々々より、日々通學する小兒より半額なりとは云へ、乘車賃を支拂はしむるとは、彼の英領濠洲植民地にて、通學兒童の乘車賃は悉皆免除するが上に、貨物列車なり汽關車なり羊を運搬する列車なり、如何なる種類の列車と雖も、心安く乘車せしめ、さて車掌は前後の發着時刻にさへ差支なき以上は、件の兒童の便宜とする個所々々に停車し、車中の人々は自から手を下して一々小兒を下車せしむるや、小兒はサンキューと呼びつゝ、嬉てハラー〳〵と相互に大聲にて喊びつゝ喜び勇みて林樹中なる其の家々に歸へり去るなど、新開地に於ける學童を奬勵する至れり盡くせりと評すべきである。此等の實際と比較すれば、在韓の日本通學兒童は如何にも憐レ氣に感せらるゝ。偖て在韓學童の乘車賃を免除せよと云はゝ、或は曰く、此の如き免除者多人數となれば、鐵道の收入に影響すべしと、焉んぞ然らん、日本人ほど教育を好む國民とてはあるなく、天安の如き僻地にある豆腐屋の小兒すら遠く通學せしむるまでなれば、苟くも學齢兒童の數十餘人に上れば學校を設置せざる所なく、現に蔚山の如き日本人百七十三人に過ざるに、學齢兒童十數人ありとて業に既に小學校を新築開始せし實例に徵するも、亦た以て予が言の誤らざるを知るべし。西洋人は新開地に移住せんとするや、先づ「教會がありますか」と問ひ、教會の有無に依りて自己の去就を決することなるが、日本人は「學校がありますか」と問ひ、學校の有無に依りて其の進退を定むる事實なれば、此點より觀下するも、鐵道の收入に影響を及ぼすまでの多人數なる學童を出す氣遣ひなく、又た日本人は此程まで教育好キの美德を有する者なれば、此點よりするも、韓半島に於ける小日本の通學生徒乘車賃は疾く〳〵免除すべきものと信ず。

『大役小志』を編纂せし室

（蒲（露帝歷山第二世が農奴解放の詔書を農奴の群集中に讀み玉ふ處）は樺太にて得たるもの）

（書（乾隆年歷、中、清國濟、中年歷）は琉球にて得たるもの）

釜山の將來及事業。

（釜山商業會議所に於て）。

日本人の對韓見識を一轉化せしむべし。

日本人の對韓見識を一轉化せしむべし。

今回釜山に來遊するや、即日釜山商業會議所より御招に預り、此く多數の人士に會合するを得たるは榮譽の至極なりと感ず。偖て今回の來遊は、在韓日本人諸君子より能く丈ケ多く韓國の事情を拜聽し、旁、韓半島の內陸を踏査し、此くて以て韓國の眞相を世上に紹介せんとする心得なり。英人は其の植民地將た新開地の事物を世上に紹介するに最も勉めたるこそ、其の海外に發展せし所以にして、現に日本の地方都會の鐵道停車場に至るまで英國植民地の風物を紹介する掲示をなし居れるにあらずや。然るに日本內地人は、我が鼻ノ先にある韓國の事情にすら通せず、予は愛知縣人なるが、今回も往途に汽車より下り縣人に面會したるに、何レも朝鮮は未だ時候が寒かるべしと挨拶せり、予が否とよ、釜山は約二十年間の平均溫度一二三月は名古屋市よりも高度なり、四月五月は殆んど同溫度、一年平均は名古屋十四度五、釜山十四度三にして、名古屋も釜山も同溫度なりと答ふるや、何レも驚きたる顏色をなし、然らば釜山は東京よりも暖きにあらずやと云ひたれば、予は然りと答へたるに、然すれば御互に

釜山の氣候（名古屋と同溫、東京より溫暖）。

韓國に移住するとも別段事ノ悪き事もなかるべしなど話し合へり。此の如き極めて普通なる事すら內地人は知らざる程なれば、韓半島內陸の事情に通せざること推して知るべく、此くてこそ半島內陸の事情を紹介する必要ありと考ふ。然るに今日の如く人々が京城卽ち政治上の中心を紹介することのみに力め、半島の內陸にありて獨立自營せる幾多の小日本の存在することを紹介せず、隨て日本內地人が韓國政治上の中心にのみ是れ注意するは、永久に日本の韓國政治を發展せしむる所以にあらずと信ず。是に於てか予は自から憚らず、韓國に於ける日本人が實力的の狀態を世上に紹介し、何卒して內地人の韓國に對する識見を一轉化せしめんと切望する者なり、是れ予が在韓の諸君子より力めて高說を拜聽し、拜聽する所と自から踏査せし所とを參照し判斷し、此くて判斷せし所を擧げて世上に紹介せんとする所因なり。

京城のみに注目し、半島所在の小日本を等閑視するは非なり。

釜山の將來及根本的事業。

偖て釜山の將來は如何せば可なりや、釜山は日本內地と最も短距離の間にあるを以て地利上、亞細亞大陸と日本との連鎖點となり、日本より露領亞細亞及び歐羅巴に出入する旅客、貨物の衝點となるべきは固より諸君子の期圖せらるゝ所なり。然りながら此の衝點を成就せんとするには、先づ第一の方策として、釜山と日本との距離を今一層短縮せしめざるべからず。日本內地と韓半島との間に橫はれる朝鮮海峽なるものが、獨り天然上のみならず、人生上に

釜山の將來及根本的事業。亞細亞大陸と日本との連鎖點。

も一角の隔離物となり居れるを以て、釜山人士が先づ大に力むべきは、人力を以て此の天然的隔離を無きが如くにすること是れなり、何分にも朝鮮海峽汽船航行の時間長きが故に、夫の數百年間鎖國的狀態にありて航海に慣れざる日本人は、今に韓國に渡航する事をば大遠國に行くが如くに考へ、億劫がり居るこそ、實に日本人が韓國を異境の如く見做す所因なれ。然れば馬關、釜山の間には尙ほ一層大なる連絡汽船、速力の大なる汽船を往來せしめ、以て日本人の續々渡來を圖らざるべからず。要するに內地人をして朝鮮海峽を渡ること橋を渡るが如しとの感想を懷かしむるに至りて、日本の韓國政治は愈成就すべく、(一)朝鮮海峽に橋を架する事、(二)馬關、門司を釜山に移轉する事、是れ釜山人士の理想とせざるべからず、否な予は日本國家の爲めに官民諸君子が發憤して此の理想を現實にされんことを希望するや切なり。

朝鮮海峽に橋を架すべし。馬關、門司を釜山に移すべし。

朝鮮の生鯛をして東京日本橋魚市場に仙臺の生鯛と競爭せしむべし。

朝鮮の生鯛を以て東京日本橋魚市場に仙臺の生鯛と競爭せしむべし。朝鮮多島海の地利を利用すべし。

生鯛と競爭せしむべし。

偖て又た朝鮮海峽の彼岸にある馬關、門司をば、海峽の此岸卽ち釜山に移轉せんとの理想を現實にせんと欲すれば、釜山の南に迤ゆる多島海の地利を利用し、這般漁獲物を一手に引受け、となり、群島の漁獲物は釜山の一生命とも稱ふべきものなれば、這般漁獲物を一手に引受け、多島海漁獲生魚と日本各魚市場との連絡を開通せざるべからず、朝鮮海の生鯛をして東京日本橋の魚市場に仙臺の生鯛と競爭して決勝的に勝たしめざるべからず、既に小規模なれども、朝鮮海の生魚は冷藏して大阪、東京に運搬され居るのみならず、又た元山、釜山と日本內地との間を航通する郵船會社汽船上川丸の如き弘前丸の如きは、元とフィンランドより英吉利へ生魚を運搬せしものなれば、アンモニア式(蕃式なれども)の冷藏室其儘現存し、諸君子に對し、改良して何卒利用されたしと待つある如き風情にあらずや、運賃にして算盤に合ふ以上は、朝鮮海の生鯛をして日本橋魚市場に仙臺の生鯛と競爭して決勝せしめ得るにあらずや。

腕ヅクにて釜山を發展せしむべし。

腕ヅクにて釜山を發展せしむべし。

其他釜山の將來を大造するに足るべき各種の事業あるべきも、算盤の球すら彈くことを得知らざる予が、專門家なる諸君子の面前に述べたりとて、畢竟空言空論するに過ぎざれば、謹慎して此の如き事を申し上げざるべし。然りながら諸君子よ、世に腕ヅクと云ふ神ほど大利益あるものとてはなし、香港は地形上不完全なる港灣なり、然るに英吉利人の一たび支那より此地を獲るや、銳意して諸般の施設と事業とを遂行し、遂に腕ヅクを以て東洋第一の開港場と化せしめたるにあらずや。又た支那の事とて思ひ出せば、目下東京其他に支那の留學生數萬人あり、敢て問ふ、日本の學問が優秀なるが故に支那の學生は此く大多數に留學の爲めに來りたりと思へるか、何んぞ然らんや、日本が數度の外戰に大勝利を博し、國勢隆々日の昇

るが如くなればこそ、支那の學生は續々渡來したるなれ、日本の學問が優秀なりなどてふ單純なる理由にて來朝せしにあらず、實は吾々が腕ヅクを以て數萬の支那學生を引張り來りしなり。又た鋼にて思ひ出せば、西洋人は赤鯛をスナッパーと呼びて在來賞美せざりしなり、然るに國威の隆興と共に歐米諸國に往來する日本人の多數となりたるに連れ、今や歐米へ航通する汽船のメヌー（献立）の内に『タイ、フィッシ』なるもの入り來りたるなり、卽ち吾々が腕ヅクを以て赤鯛を歐米汽船の献立に入れしめたるなり。セント・ルイス大博覽會の當時より、歐米人の趣向漸く派出なるものを去り、滋味ある日本風に傾きたるは、日露戰役の結果、歐米人は頓に日本人の趣味を研究し初め、此くて此の如き趣味を解し初めたることなれば、是れ亦た實は吾々が腕ヅクを以て趣味を解せしめたるなり。又た在來歐米各國の畵に日本人の容貌を畫に日本人の容貌を極めて醜く畫かれたるもの、今や歐米より一船の來る毎に日本人の容貌を益〻美はしく畫くに至りたるは、日本に俄かに美人美男子の增加せしにあらず、國威隆興の餘蔭は容貌すら美はしく畫かしむるに至らしめたるものにして、實は吾々が腕ヅクにて美人美男子を增加（畫上のみなれども）せしめたるなり。此の如く腕ヅクと云ふ神ほど大利益あるものは復たとあらじ、然れば諸君子は此の神を厚く敬ひ堅く信じ、且つは國威隆興の餘蔭に乘じて傲慢自尊とならず、先進國を層一層尊敬し、又た朝著後進國を善く指導し愛撫すると同時に、克く各自の

腕ヅクを振ひに振ひて韓半島と日本内地との間に橋を架せよ、腕ヅクを振ひて半島の彼岸なる馬關、門司を釜山に移轉せしめよ、腕ヅクなる哉、腕ヅクなる哉、我レ亦た腕ヅクを振ひ振ひて諸君子と共に猛進すべし、諸君子請ふ國家の爲め猛進して釜山の將來を大造せられよ。

釜山右翼地方と釜山。

釜山右翼地方と釜山。

今囘釜山の右翼地方を七日間巡遊し、韓半島に散點する小日本の模本を一個ずゝ觀察するを得たり、卽ち自作農業を根柢とせる三浪津、沖積溪谷に於ける政治上及び經濟上の中心たる晉州、此の沖積溪谷の門口たるべき三千浦、水産を根柢とせる統營を視察し、各〻屈强なる根柢を具有するを以て、將來必らず發展すべき數理あるを知れり。數理の許さゞる個所は遂に發展せず、之れを新開地の實例に徵するに、北海道の福山（松前）、江差、壽都、增毛の遂に發展せざるは、後方區域は局促せられ、加ふるに前面の水産力消耗せしを以てなり。予は今囘巡遊せし釜山右翼の各地方は夫レ〴〵發展すべき數理あるを確信すると同時に、釜山は道般の各地方と連絡するに最も便宜なる地利を占め居るのみならず、前面なる多島海の水産力は未だ旺盛なるを以て、釜山人士にして或は個人として或は團體として、道般各地方と運輸交通の連絡を愈〻開通するに力めなば、釜山の繁榮期すべきは、諸君子に於ても固より知了さるゝ所、予は今囘の巡遊に依り、釜山の益〻繁榮すべき餘地あることを確乎信じて疑はず。

晋州の現在及將來。

（晋州日本人歡迎會に於て）。

晋州の名を知る者幾人ぞ。

日本内地人にして『晋州』の名を知る者ありとすれば、文祿の役、日本の遠征軍が再度此處に大戰せしを以て記憶する位なるべし、何んぞ韓半島の内陸に十四方哩の冲積平原を開展し、米五十萬石（五百萬圓）、麥五十萬石（二百二十萬圓）、大豆十五萬石（一百萬圓）を生産し、紙、麻布、木綿の中心市場たることを知る者能く幾人かある。

晋州の經濟地理。

晋州古今の變遷。

晋州古今の變遷。日本陸軍大敗戰の地。

予が隣席に居らるゝ吉田大隊長には、此の歡迎會の席上の邊こそ、嘗て日本戰國の猛雄加藤光泰等七將軍が揃ひも揃ひて朝鮮の權元師（懍）の爲めに打ち敗られ、日本の歴史に『七將爲す所を知らず、僅に免れて歸る、軍資器械を道途に委棄する勝て數ふ可らず、兵士多く逃亡す』とて、此の根本的大敗北より日本軍には『是より復た兵を出さず』と、我が遠征軍の運命を裁決せし處なるかと同想されなば、如何ぞ古今の變遷の大なるを感起せらるべきぞ、否な大隊長のみならず、晋州居留日本官民六百五十の諸君子、今昔を俯仰して抑、如何なる感かあ

る。韓の古詩人李學懋、此處を過ぎり、權元師が日本軍を敗りたるを歌ふて曰く、『綠江四月初、縱レ棹下二幸州一、柳暗藏二黃鶯一、沙明坐二白鷗一、在昔權元師、破レ倭名千秋、今我載レ酒過、往蹟何處求』と、陰曆四月とは此頃の季節なり、我レ今却て此の句中の人となり、昨日も晋州城に入らんとして、綠江に棹し、遙かに樓臺が柳暗沙明の裡に隱見するを眺むや、覺えず馬上に此句を朗吟すれば、無心なる韓人の馬夫は「チョッソ〳〵」（妙々）と相和し、晋州に入れば、日本人諸君子より此の如き歡待を受け、日本酒あり、札幌麥酒あり、『今我載レ酒過、往蹟何處求』こそ我レ自身より發すべきものとなり、美人の産地として古來有名なる晋州の妓生は日本服を裝ひ、日本の時計を着け、日本語もて諸君子の酒席に侍る實際を見聞すれば、今古の變遷に打チ驚かざる者幾人かある。

韓半島に於ける小日本の模範。

韓半島に於ける小日本の模範。

晋州古今の變遷は此の如く大なり、是に至りて此の韓半島の内陸に自治的小日本の模範を作り、自から其の模範者を以て任せられんことを希望せざるを得ず。西洋の諺に『新開地にて、西班牙人は先づ寺を建て、佛蘭西人は酒庫を造り、英吉利人は集會所を設く』と、此の集會所とは人々の集會し、其議し、親睦し、自治隣保、以て土地の開發を期圖すとの意味なるが、英人卽ちサキソン人種が西班牙、佛蘭西の如き羅甸人種に比べて大に成功せしは、新開地が首

として堅固なる自治體を造りしにあり、幸に晉州にては官民の別なく擧げて日本人會に入會せられ、創立以來何等の紛雜なく、平和穩健に發展せしとのことなれば、宜しく韓半島に於ける日本人會の模範者を以て自から任せられんことを切望す。凡そ新開地に能く勢力を扶植し能く所在を發展せしめ得るは、單に人を集め人を收容するより來るにあらずして、少數なりとも組織ある秩序ある自治體を造り、此の自治體より諸般の施設を遂行するより初めて成功するものなり、唯だ人がゴロ〳〵と石の如く礫の如くなり居りては如何に多數なりとて、何んの詮も無きことは諸君子固より之れを知らん、宜しく晉州の日本人會が今日の好成績を繼續し、顯彰し、以て圓滿なる日本國を南江の溪谷に大造せられんことを望む。

新開地に於ける官吏の永續勤務。

新開地に於ける官吏の永續勤務。

新開地に能く勢力を扶植し能く所在を發展せしめんとするには、居留民にありては、秩序ある自治機關を造るにあると同時に、官吏諸君子に對しては勤務の永續を切望するなり。英國にては其の植民地セイロンに官吏たらんとする者は滿十五年間勤續せざるべからず、又た印度にては滿二十年間勤續して初めて恩給に入るなり、此の如く政府に於ても一官吏の任地を容易には轉せしめず、其の土地の人情、風土、言語に闇熟せしめ、此くて以て新開地に事業を擧げしめ、此くて以て親切に新開地に政務を行はしめ、セイロンにて十五年、印度にて二十

新の樓降受
此亡存の國皇の隊艦合聯郷東、後年百三ちの即は面水しせ敗大年當の軍水本日
盛しせ發進とんだ擊え迎を隊艦ッルパ國露、々商艦各、し發信と打り走に擊一

年勤續後には、本國に於けるよりも多大の恩給を授くるを例となせり、苟くも新開地に於て事の成功を期圖せんと欲すれば、此の如くせざるべからず。奈良原男爵の沖繩縣に在職する十七年、朝武士郡長は在職三十年、武石警視も亦た二十年に近づかんとす、琉球の納税額が差引二百萬圓國家に貢献するに至りたるは抑源因なきにあらず、其の官吏の勤務の永續こそ一源因として數ふべきものとす、以て新開地に於ける官吏勤務永續の効能を悟らるべし。

晋州の將來

既に十四方哩の冲積溪谷あり、南七里にして三千浦の良港灣あり、晋州溪谷の産物は此の門口よりして釜山を經、日本將た世界に輸出し得べし、晋州は正しく地の利を得たり、此の地の利に人の和を得、將來の多望なる期すべく、希くは予が再遊の日までに馬山鐵道は晋州まで延長せられ、長亭短驛、汽車夢を載せて晋州に到り、予をして馬上にあらずして、車中にありて『在昔樓元師、破倭名千秋』の句を吟せしめんことを。

晋州の將來。

受降樓

粤在元陵乙亥春先君在是營而慨於船所乏種樹之壯遂召匠度材上爲層樓下設三間不日告功仍錫名以受降樓又於樓四區石塹泌伊麻三十餘畝船上器械一一礮之俾免沾濕朽損之患編防典守之旅於焉釜電矣甲寅秋不肖頭忝是節先登斯樓追感往切瓦礫之傾圮者傷其之丹雘之渝渝者檢點之樓無蕪頹更以受降樓三字受實侍郎年以揭之登斯樓之雄觀於 先君非但不肖之耳剿當時畫役之老校故吏詳道其事歷歷可攷而李統制漢昌有記曰受降樓不知昉於何時又曰李公慶潭移營時所剏歟云李統制於李公爲百有餘祀於 先君纔餘十載何爲遠引李公而傳疑近舍 先君而不稱歟抑亦之間而然歟茲不得不略叙顚末如右云爾
崇禎三丙辰中夏李得潭謹識

三千浦の現在及將來。

（三千浦日本人歡迎會に於て）。

世界の地圖に記載なき地名。

世界の地圖に記載なき地名。

『三千浦』、『三千浦』と云ふ、而かも東京に於て予が手の廻はり得べき各方面を捜索せし新舊の地圖、即ち日本版の地圖にも朝鮮版の地圖にも西洋版の地圖にも『三千浦』なる地名は遂に認め得ず、蓋し世界に於ける地圖中に絶えて見ざる港灣なりと想ふ（最最近に統監府通信管理局にて發行せし通信事業報告中の地圖にて初めて認め得たりと雖も）。此の世界の地圖に記載なき處に於て、居留日本人十九名の諸君子より、此の如き日本風の二階屋に迎へられ、此の如き秩序ある準備の下に宴會を開かれたるかと思ひ廻らし廻らせば、予は殆んど夢の如き心地するなり、何んとなれば予は自稱地圖通なり、其の地圖通が捜索し得ざりし地上に於て、三十三戸、一百五十の日本人が早く既に團體を組織せられ、營業割、戸數割、特別割、雜收入の收入（明治四十一年度二百三十六圓四十錢）を以て、諸給與、備品幷に消耗品費、教育費、衛生費、道路修築費、臨時費まで支出せられ、小日本を秩然と新造せられたる伎倆に至ては誠に嘆服の外なしとす。

得意夢の如き心地。

日本海軍大敗戰の地。

得意夢の如き心地。

然れども夢の如く心地する所因は此に止らざるなり、見すや此の二階屋の下より閑山島に到る海面は、我が戰國の猛將島津義弘、長曾我部元親、藤堂高虎、加藤嘉明、九鬼嘉隆、來島道泰、脇坂安治、森村春の聯合艦隊が李舜臣（忠武）の率ゆる朝鮮艦隊と戰ひ、來島、森は戰死し、長曾我部は敗れ、脇坂は船を奪はれたるを恥ぢ自殺せんとし、大敗北の處なり、宜べなり韓人が統營に『受降樓』の大模門を建て、雄を取れば即ち『水戰李忠武之閑山』と謳揚することを、而かも此の水面に日本形の舟を浮べ、過刻諸君子の御案内にて備前兒島灣式の日本網を打ち、赤鯛、黑鯛を獲、一盃の日本酒、以て李舜臣の魂を弔ひたるかと思へば、國威隆興の餘蔭は此にまで至るかと、我レながら覺えず東方を再拜して、『帝國萬歲』を絶叫せざるを得ず。

在韓日本人の最も謹慎すべき秋。

在韓日本人の最も謹慎すべき秋。

帝國の國威は此の如く隆興せり、我レながら覺えず『帝國萬歲』を絶叫せざるを得ざるなり、而かも此時此機こそ吾々日本國民、特に在韓の日本人が謹慎に謹慎を加ふべき秋なることを各自の頭腦に銘せざるべからず、唯今日本人會長大野靑二君は諸君子を代表し、予に向ひ「かゝる僻地まで御を枉らる云々」と御挨拶ありたり、大野君が眇たる一個の壯年を以て、香川縣より此處に來り、當時三千八百有餘の群がる韓人の間に入り、迫害と嫉視との下に三千

一篇の「ロビンスン・クルーソー」。

三千浦の將來。

浦を開き、勇奮孤闘、以て今日あるを致さしめたる言行に至りては、正しく一篇の「ロビンスン・クルーソー」傳なり、假令君にして此事を世に傳ふる勿れと注文すとも、予は因循なる日本内地人の爲めに一服の奮興劑として香川縣人大野育二君の言行を日本内地に紹介せざるべからず、「かゝる僻地」とて大野君が此處を我物の如く日本國土の如く呼び且つ見做さるゝ心事は諒とすべきも、而かも韓國は儼然たる大韓帝國なり、土地は犯すべからざる大韓帝國の領土なり、予は我が同胞が國威隆興の餘蔭に依りて法外なる擧措に出づる無きを確信して疑はず、國威隆興の今日こそ實に自から謹慎し、歐米の先輩國に對しては先輩として尊敬し、韓國に對しては後進國として慈、補育し益、啓發し、以て我が神武天皇以來なる祖宗の遺志を大に奮揚せざるべからずと信ず、要するに『大謹慎して奮揚すべし』との句は、今の時に當り在韓日本人諸君子に呈せんとする予が最大の贈物なり。

三千浦の將來。

三千浦の地位は韓半島南岸の中央にあり、水深七尋、一二千噸の汽船を碇泊せしむるに足れり、此の如き良港灣が世に知られずにありしは一個の不可思議なり、況んや肥沃なる晋州溪谷の門口としては、此處に依るにあらずんば他に求むべからざるをや、予は新式なる新開地開發の計畫を此處に應用し、疾く三千浦の開發を期するや切なり。

長生浦は日本内地に優る點あり。

長生浦は『鄙』にあらず。

長生浦の現在及將來。

（長生浦日本人歓迎會に於て）。

長生浦は日本内地に優る點あり。

唯今長生浦（蔚山灣）日本官民諸君子を代表し愛媛縣人松垣作米君より丁重なる御挨拶ありたる上、流石に俳諧流行の本場たる愛媛縣出身丈ケありて『行く春に鄙に善い客來りけり』（松山系の新派にはあらずと雖も）との玉吟を賜はれり、成程見渡す限り躑躅花咲き亂れ、『行く春』には相違なけれ、長生浦は果して『鄙』なりや否や、陸上には蒸汽々關あり、煙突林立し、起重機あり、鯨の解剖場あり、海上には諸威式の捕鯨船連れり、而して此席の如き日本流二階屋三十疊あり、何んぞ『鄙』と云ふべけんや、主人は謙遜の語を以て『鄙』と云はれたれども、其實は敢て然らず、此の方面の海岸線及び潮流は岩手縣に甚だ類似するを以て、岩手縣の海岸を以て譬へん、岩手縣海岸には宮古、山田、釜石などてふ都會は別とし、米を購ひ得べき個所少く、麥酒は固より日本清酒を得べからざる所多く、況んや三十疊敷の二階の如きは遂に見るべからず、長生浦の社交的程度は正しく岩手縣の海岸、否な大概なる日本海岸地方より以上にあり、是れ敢て謙辭にあらず、事實は事實なり。

捕鯨の根據地と捕鯨船の改良。

捕鯨の根據地と捕鯨船の改良。

長生浦（蔚山灣）は既に『鄙』にあらず、否な大概なる日本海岸地方に優過する程度にあり、果して然らば長生浦には、一は其の生命となせる捕鯨事業振作の爲めにも、二は因循なる日本内地人を警醒せん爲めにも、今より捕鯨船の改良を遂行せられんことを望まざるを得ず。韓海の捕鯨事業は時々大利益ありと雖も、而かも漸次鯨族の減少せしは事實なり、否な將來減少すべきは諸君子の固より知了せらるゝ所、隨て捕鯨事業の利益薄らぐべきも亦た事實なり、統監府に於て獵獲時期を制限せしは、鯨族の永久保護の爲め時宜に適ひたるものなりと、予の私かに贊成する所なり、而して長生浦は何が爲めに存在するか、主として捕鯨事業の爲めに存在することを知らば、各捕鯨會社は今や奮て捕鯨船を改良せざるべからず、否な日本内地の鯨族も亦た減少すべきは數理の勢なれば、是れに就けても愈益新式の船を造らざるべからず、時代の進歩は諸威式すら陳腐となり、夫の根據を陸上に有するを要せず船中にありて其儘に解剖し油を搾り得べき亞米利加式の船現はれ、今や此の亞米利加式の幾部を日本にて改良せられたる最新式の船すら現はれ來りたるにあらずや、折角に韓海に此の如き壯大なる規模を擴張せし各捕鯨業者は、百尺竿頭一歩を進め、最新式の船を造り、以て韓海に覇を稱へざるべかず。

新開地に於ける學校と其の教師。

新開地に於ける學校と其の教師。

此の如く日本人が長生浦に捕鯨事業の根據を造りたる以上、諸君子には一日も速かに小學校を設立せられんことを希望す、日本人の新開地に移住せんとするや、先づ「學校がありますか」と問ふ、「未だ學校はありませぬ」との返答を聞けば、「ソレデは子供の教育か出來ねば先づ移住せざるべし」との觀念を生じ、學校ありと聞けば、家族を携へ安心して移住すべしとの觀念を起すを以て、韓半島の各地に小日本を散在せしめんことを期せば、首として小學校を設立せざるべからず。長生浦には見渡す限り此の如く文明の利器を備具しながら、未だ學校を開かざるは憾むべし、然りながら學校建築基金八百餘圓は既に集り、目下設計中なりとの御話を聞きて安心せり。此の以上は教師選定の事に就き一言せざるべからず、農業を以て根柢となせる新開地に小學校を新設したるなれば、其の教師は農學校卒業者を聘し、水產を以て根柢となせる新開地に小學校を新設したるなれば、其の教師は水產學校卒業者を聘するを便宜となす、農科大學の學士將た農商務省水產講習所の卒業生を招聘し得ざるとするも、府縣將た郡立の農學校、水產學校の卒業者は招聘し得べく、此等の卒業生は日本内地にては然までの需用なく、而かも何レも年壯氣鋭、韓國の如き新開地に於て爲す有らんと期圖する者なれば、彼等は然までの高給にあらずとも喜びて招聘に應ずべしと信ず。之れを長生浦にす

れば、府縣立水産學校卒業生を其の新設せる小學校の教師に招聘せんか、彼等は鯨なれば脊美、長會、青鯊の區別は固より、一般水産上の學問、技術にも通曉するを以て、何かと顧問的の便宜あるべしと信ず。要するに新開地に於ける小學校教師は、當該地方の主産物に趣味と智識とを備具する者を選用するを主眼とせざるべからず。

蔚山灣の將來。

韓半島の曖き部分に於て東海岸系にある港とては、北に迎日灣、南に蔚山灣あるのみ、故に蔚山灣は獨り捕鯨及び漁業の根據地たるのみならず、實に其の所在平原の門口たるべし、灣は深く入りて河となり、河の沿域には十七方哩の溪谷を開展し、此の溪谷の中心に蔚山本府據在するを以て、若し夫れ本府と長生浦との間に僅々二里半の道路を開鑿せんか、溪谷の大豆、米は容易に長生浦より釜山を經て日本内地將た世界に輸出さるべし。此の如くんば長生浦は獨り捕鯨及び漁業の根據地たるのみならず、亦た農産物の輸出口たるべし。長生浦の地利は多望なり、諸君子が進みて此の多望なる地利を大に利用せられんことを望むや切なり。

△長崎捕鯨合資會社は明治四十年中、鯨一百六十頭を獲。
△東洋捕鯨株式會社は明治四十年中、鯨七十七頭を獲。
△鯨船問會（兵庫縣淡路）は毎年四月より鯨採取の爲め志摩より壱拾二百餘人を招聘す。同會會の長生浦に於ける鯨罐詰製造は六千ダースにして、長崎を經て清國に輸出す。
△長生浦漁季には日本各地より漁夫少くも五六百人集集し、盛漁季には八百人に上る。

蔚山灣の將來。

蔚山の現在及將來。

（蔚山本府日韓官民歓迎會に於て）。

加藤清正の古戦場。

代表的日本人（加藤清正）。

加藤清正の古戦場。

『蔚山』と云へば、吾々日本人には直ちに主計頭加藤清正が明の大軍を破りたる大古戦場たるを回想せざる者なし、席上の日本人諸君子よ、清正は吾々日本人の代表者なり、當時の韓人記すらく『主計清正、自二壬辰歳踏一境以來、不レ貪二利欲一、可レ謂二仁人君子中之君子一也歟……若レ此非凡大有人員』なりとて、韓の王子すら番僧歳をして密かに清正の貌を絹に畫かしめ、『掛二幅位一焉、以二牲物一祭典二生祠一』と記し玉ひしにあらずや、吾々日本人は已むを得ざる秋來ればこそ已むを得ずして劒を磨きつ起つなれ、而かも劒を磨きて起ちたりとて利欲を貪らず、仁人君子中の君子を以て心私かに期し居ることは席上の韓人諸君子焦幾くは知了し居らるゝなるべし。吾々日本人は韓人諸君子が同愛の情に依り、此處に男女一百七十三人の可憐なる小日本を建て、五百六十圓を投じて既に小學校まで新築し、主計頭清正が築きたる蔚山の古城壘と相對する處に開明亭なる一料理屋を作くり、主人夫妻が尾張津島の出身とて、名古屋風の調理を供したるに會ひ、予が今回渡韓の途上、名古屋驛に下車し、中村に清正誕生

の古趾を訪ひ、清正の築きたる名古屋城の五層樓上、金の鯱が雲に躍るを仰ぎ見る處、其の誕生地に建てたる碑を撫で、『國城五層、金鱗躍雲、維侯所ノ功』の文を讀み、座ろに今昔を伏仰せしが、今茲に蔚山古城壘に對し尾張人が早く既に開明亭なるものを建てたることを思へば、尚ほ一層に今昔の感に堪えず、清正誕生地に對する名古屋城よりも、蔚山古城壘に對する開明亭の方が遙かに面白き對比（コントラスト）なりと思ふ。予は是に至りて蔚山在留日本人諸君子が宜しく吾々日本人の代表者たる清正の心を以て各自の心となし、韓人諸君子と相交り相親しみ、此處の小日本をして愈、益、大なる日本と發達せしめんことを祈らざるを得ず。

大和樓と大和江。

大和樓と大和江。

予は又た是に至りて此會の發起者蔚山郡守正三品鄭海八君が予の爲めに『萬歲』（マンサイ）を祝されたるに感激せざるを得ず、統營にては從二品高君が發起者となられたるが、高君は早稻田大學にて聊か教を授けたることあり、且つは年壯の郡守なれども、此郡の鄭君は然らず、予と何等の緣故なき老先生なり、而かも昨日は長生浦まで來り訪はれ、今又た日本官民と聯合して此會を開かる、見られよ壁上なる古色掬すべき扁額には『安邊壯士曾要ノ阨、擬敵文章已上ノ頭』と掲げあれども、今や壯士の阨を要すべき事もなく、擬敵の文章のそれならで、鄭君より『生年但願識三荆州一、怒ノ海高風此地流、美隣相對慇懃意、花柳霽天碧一樓』の唱和を賜はる、ア、美隣相對して此の一樓に慇懃の意を通じ、韓人日人贊同して名さへ『大和樓』に此の盛宴を開き、樓下を流るゝ『大和江』に臨みて大平和の會を催ほす、予は是に至りて日韓官民諸君子の萬歲を唱へ（サ）ざらんと欲するも得ず。

新開地に於ける蔬菜栽培の急務。

新開地に於ける蔬菜栽培の急務。

『大和樓』と『大和江』とに關する感激は以上の如し、而かも此の大和江は少くとも蔚山本府の一生命たることを悟らざるべからず。大和江の壤土はV字形を作して十七方哩に跨り、蔚山本府は此のV字形壤土地方の中心市場なり。此の壤土は肥沃なるを以て、日本人には洪水汎濫區域以外の個所々々を相して蔬菜を作らんことを要す、さなきだに日本人は幼時より蔬菜を多食し、又た蔬菜を多食する祖先より遺傳し來りたる者なれば、蔬菜に缺乏すれば、塩血的の傾向を生ずるのみか、既に居留日本人が各自の庭園又たは所有地に蔬菜を植付ければ、夫レ丈ケ吾々日本人の力を韓半島に扶植することゝなるなり、蔬菜の種を播き、苗を植ゑ、日夕其の成育を樂しめば、夫レ丈ケ吾々日本人の韓半島定住を期し得らるゝものなり、娘が種を播き、妻が苗を植え、老いたる母が日夕其の成育を樂しむ樣になりてこそ、能く日本人は韓半島に膨脹するに足らめ、是れ此の小日本をして愈、益、大なる日本と發達せしむる第一の階梯なりと知らるべし、言ふべく行ふべき最も簡單なる日本人定住の方策なりと悟らるべし。

蔚山本府の將來。

蔚山本府の將來。

既に日韓人民の此の如く相依り相親むあり、而して十七方哩の肥沃なる壤土あり、此の肥沃なる壤土の門口としては僅々二里半南に長生浦あるにあらずや、距離と土地との勾配より觀下すれば、慶州以南の米、大豆は一たび蔚山に集り、長生浦より出口を求めて世界に輸出せられ、長生浦より慶州以南の地方に入るべき物資も一たび蔚山に集り、蔚山は這般輸出輸入品の集散場たるべし、予は蔚山の小日本が愈〻益〻大なる日本と發達すべき數理あるを信じて疑はざるなり。

△氣候は大陸性なれども、北に山を負ひ、東は日本海に臨むを以て、寒暖の差少く、温暖なり。

△蔚山本府、韓人七七四戸。東三十町、內陸、韓人八八戸。東一里、兵營、韓人八七九戸。南東一里、三山は製鹽地。南東二里半、長生浦は捕鯨根據地。此の如く蔚山は水陸産物の中心市場となり、主なる産物は、

品名	一年生産高	同輸出高	品名	一年生産高	同輸出高
米	四萬六千石	二万五千石	刀魚	九千圓	八千圓
麥	二萬三千石	——	鰹	四千二百圓	四千圓
大豆	六萬三千石	五萬五千石	若布	一萬貫	八千貫
海藻	四千二百束	三千七百束	鰊	六千三百圓	五千七百圓
生牛	七千頭	六千頭	鹽	九千六百石	八千七百石

△加藤清正の蔚山古城趾は本府の東二十町、一丘陵にあり、今に城趾を存す、高地より屹立するを以て最も眺望に佳なり、蔚山公園にすべしと考案中なりと聞く。

新羅の故都に於けるる者一行（慶州）

近附の廟の羅新

月牛城

星

雪

慶州の現在及將來。

（慶州日本人歓迎會に於て）。

新羅の故都。

慶州居留日本官民諸君子、予が夕陽の下、慶州卽ち新羅の故都に到るや、一千數百年前の王陵には春草茫々として、石馬聲無く、李花咲き亂れたる處、我が王朝の師が新羅に破られ、壯士伊企儺が群がる敵に向ひ「新羅王吾が臀を殆へ」と罵りて斬られたる當年の事など思ひ詫び、馬上にて

新羅王好殆吾臀。頸血迸空仍罵東。往事千年春似夢。李花吹盡馬蹄風

と口吟みて城下に入りたる折しも、居留の日本官民諸君子より此の如き丁重なる宴席を『東京舊都』の古殿閣内に設けられ、歓待せられたるは、予の望外否な全く豫期せざりし所なり、而かも此酒はと問へば、當地在留の島根縣山崎館一郎氏が朝鮮米を以て日本流に釀造されしものにして、名さへ『新羅王』と銘せられたりと聞きては、小戸なる予と雖も、此の大盃を滿酌し、『新羅王』を飲み乾して伊企儺の爲めに其の未死の英魂を酹り、以て一千年の後彼レが志の酬ひたるを地下に告げざるを得ず。

銘酒『新羅王』。

千萬言の韓國移住論に優る。

千萬言の韓國移住論に優る。

日本商人が慶州に住居し初めたるは明治三十九年の秋のみ、而かも早く既に『新羅王』の銘酒を醸し、醤油を造り、味噌を製り、此の席上にはフロックコート着用の商人諸君子と相應接するに至りて、予は韓國内陸各地旅行の爲め白シャツの汚れカラーの垢浸たるを着け居るを恥ぢ、且つ諸君子に謝せざるを得ず。然りながら予は諸君子が慶州に於て早く既に此の如き情態を作ることを日本内地人に通告するに至りて、予の如き輩が千言萬言の對韓策、韓國移住奬勵論を起草し且つ講演するよりも、日本内地人が韓國移住を奬勵するに千萬倍の效能あるべきことを悟るに至れり、「オイ僕が慶州と云ふ朝鮮内部の都會に着いたら、松永と云ふ警部がカステラを供した、無論日本から來たものと思ひたるに、警部はイーエ、慶州で日本人が作つたのでありますと答へた、又た其家で西洋料理を供したるに、風味がハイカラ的なればそれをを問へば、米國に十三年間コックとなり居りし福岡縣人の料理屋より取り寄せたるものと答へた、成程東京や大阪の大概の西洋料理よりは風味が佳い筈だつた」との一話こそ、クダ〳〵敷空論よりも、適切に日本内地人の韓國移住の動機を與ふるに一層の效能ありと信ず。

衣食住の安き極樂地。

衣食住の安き極樂地。

然れども日本内地人が移住の動機を與ふるは、以上の一話に止らざるなり、『新羅王』の銘酒に就ても然り、韓國に於て醸造し、酒造税なく、營業税なく、附加税なく、殊に煩シサ至極なる收税吏の檢査もなく、今や五十石醸造なりとのことなるが、既に是れが酒造税のみにても一千圓の負擔なきにあらずや。醤油、味噌に至りても同樣なるのみならず、大豆は韓國産のもの品質佳良にして而かも低廉なるのみか、鹽は日本内地の如く專賣局より受領せず、直ちに臺灣より輸入するを以て、醸造者は酒、醤油、味噌を醸造して利益多く、而して需用者は價廉く輸入するを以て、總じて韓國に於ける衣食住の費用の低廉なるは道理なり。古句に曰く、『此心安處卽吾鄕』と、吾鄕なる哉々々々々、予は此等の實話を能ふ丈ケ多く日本内地人に通告し、以て内地人が疾く慶州の如き衣食住の心安き地に來住せんことを奬説すべし。

日本の雅客も亦た來るべし。

日本の雅客も亦た來るべし。

今や時勢の進運より觀下すれば、文人は奈良に遊びて古の都の八重櫻を賞づるより以上に出でざるべからず。日本の文人は、前みて慶州に遊び、新羅九百九十餘年間の故都を探り、四十八王陵を弔ひ、去りて瞻星臺を訪ひ、下りて一千年前の玉笛を吹き、以て日本文學の内に慶州の春將た秋を加へんことを希望す、是れ亦た知己の文人墨客に奬説する所あるべし。

日本の學者も亦た來るべし。

日本の學者も亦た來るべし。

何んぞ雅客と限るべけんや、日本の學者も慶州に來遊し、少くとも二三個月間は滯留して附

日本の雅客も亦た來るべし。

奈良以上の古蹟。

日本の學者も亦た來るべし。

日韓古史の關係を考究するに最も適す。

近を探討せんことを要す、即ち日本の天孫族と韓國古代史との關係、天孫族以後なる日本と新羅との關係、三韓より日本へ佛教の傳來、奈良朝美術と三韓との關係、日本の古代建築物に及ぼせる三韓の感化等、要するに日本の文明の淵源を考究するには、慶州の如き資料の豐富にして且つ這般資料の一個所に寄集し居れる處とては他に比類なかるべし、皇南里の諸山陵と日本古代の山陵との比較考究のみにても一大論文を作爲するに足るべしと信ず。

慶州の將來。

慶州の將來。

日本と云はず、支那と云はず、韓國と云はず、西洋と云はず、古き時代に於て大なる都會を發展せし個所は、必らず夫レ丈ケの經濟力を具備せし處なり、長安に、洛陽に、六朝の都會に、何レも今に大なる都會として發展し居るなり。今、慶州の地位を按ずるに、韓國の蹊き部分の東海岸系にありて、此の東海岸系に船舶を繫泊し得べき港とては蔚山灣（長生浦）と迎日灣（浦項）との二あるのみ、而して兩灣の中間に位する慶州河の中游には六條の冲積平原一中心より放線的に射出し、總面積五十方哩弱、而して其の中心こそ慶州なれば、人文發達の行路上、新羅が此處に都して當時人口幾十萬の大都會を創造したるは偶然にあらず、而かも此の地利は今も昔も相變はる所なきのみか、大邱に到りて鐵道に達する大國道も目下開鑿中なるを以て、慶州居留民にして自から將來を造らんとすれば、必らず大造し得べしと確信す。

慶州の地利。

韓半島の名古屋か將た仙臺か。

大邱の地利。

大邱の現在及將來。

（大邱日本人歡迎會に於て）。

（第一二四一頁の地圖參照）。

韓半島の名古屋か將た仙臺か。

大邱の官民諸君子、予が昨年今日頃大邱に來遊せし後、日本人の居留區域は火災に罹りたるに拘はらず、郵便局始め各種の建築物は新造せられ、市街の體裁は愈〻整正を加へ、益〻發達の氣運に向ひたるは、日本人として大に人意を强うせざるを得ず、然れども敢て問ふ、此の發達は抑〻何に由來したるか。大邱の地位は、慶尙南道に於ける政治上、經濟上の要衝を占むるより、新羅、高麗の大古より今日に至るまで殆んど二千年の間、人生の中心たりしには相違なけれ、僅々一二年間に日本人の頓に增加せしは、大邱舊來の惰力のみに依るにあらず、實は旅團司令部も、理事廳も、控訴院も、地方裁判所も、觀察道も、財務監督局も、測候所も、同仁醫院も、各種の學校も、齊しく大邱に集中し來りしより、俄かなる發達を來せしものなるべしと信ず。日本內陸の都會にして政治上、軍事上の中心として發達せしものに仙臺市あり、政治上、軍事上及び經濟上の中心として發達せしものに名古屋市あり。仙臺市は、經濟上の中心を缺くてふ一大弱點あるを以て、其の發達は名古屋市の如くなる能はず、名古屋市は、經濟上

の中心が主力となり、隨て政治上、軍事上の中心となりたるものなれば、其の發達は鞏固なるが上に、其の繁榮及び人口は年一年に加倍し來るなり。大邱は政治上、軍事上、經濟上の中心として名古屋たるが如き觀あれども、而かも最近年間の發達は、經濟上よりも寧ろ政治上、軍事上の中心たるに由來せるものと信ず。然らば大邱は將來に於て仙臺たるべきか、將た又た名古屋たるべきか。

大邱の競爭地。

大邱の競爭地。

大邱は仙臺たらしむべからず、宜しく名古屋たらしむべし、然るに大邱は、交通機關の幼稚なりし朝鮮時代にありてこそ、貨物集散の大市場となり居たるなれ、交通機關の發達し將た愈〻發達せんとする將來に當りては、果して過去將た現在の如くに貨物集散の大市場として發達し得べき個所なるか。大邱は洛東江を距る〻三里なれば、洛東江の水運は比較的に大邱に資するに足らず、大邱以北の貨物は、米、大豆等倭館驛に出で、驛は京釜鐵道線と洛東江との連絡點なれば、便宜上、驛より洛東江に依りて南下すべく、尚ほ又た大邱以西の貨物とても便宜上、洛東江の水運に依るものなるべく、然らば大邱以南の貨物は如何と云へば、京釜鐵道線の慶山驛に集散すべく、大邱以東、永川以西の貨物は、今回大邱より永川まで大國道の開鑿中なれば、誰人も大邱に集まるべしと豫期し居れども、焉んぞ知らんや永川、大邱間なる河陽より斜めに慶山まで道路にして開鑿せられんか（河陽、慶山間は地勢平坦殆んど一岡陵だに見ず、又た川も少く、大河として無ければ、道路開鑿は容易なるべし）、永川より河陽を經て大邱まで八里、永川より河陽を經て慶山まで六里なれば、大邱に出づるよりも慶山に出づるは、差引二里のチゲ賃（韓人の肩に荷はしむるをチゲと稱ふ）を減ずるのみならず、慶山驛は大邱驛より十哩南にあれば、米穀、大豆等を日本に輸送するには、慶山に向ふ方が十哩丈ケ鐵道賃を減ずること〻なるなり、更に又た南韓沿岸の汽船航行にして發達すれば、在來大邱に幾分か集散し居れる永川以東の貨物は、迎日灣（浦項）より出入するものもあるべし。然れば大邱は、北と西とは洛東江の水運と競爭し、南と東とは將來慶山と競爭し、永川以東の貨物は迎日灣と競爭せざるべからず。此の如き競爭地の現在將た將來に現はれたるは、新羅、高麗時代は固より、日露戰役以前には夢にだに見ざる所なりしも、其の夢にあらず、現實に來るべきは、僅々數年の後に迫らんとす、大邱の日本人諸君子たる者、朝鮮時代の得意なる地理的狀態に狎れて、此の狀態の變化すべきを悟らず、旅團司令部とか、控訴院とか、裁判所とかゝ新設せられたりとて、若し一時の偷安を貪るなどのことあらんか、大邱は名古屋たらず、仙臺と成り果つること、是れ予の只管恐るゝ所なり。

洛東江水運の競爭地（倭館）。

鐵道輸出の競爭地（慶山）。

海運の競爭地（迎日灣）。

敢て問ふ、大邱をして名古屋たらしむる方法如何。

大邱をして名古屋たらしむべし。

大邱をして名古屋たらしむべし。

名古屋は現下工業の一中心となり居れるが、其のそれあるを致したるは、附近に原料多く、且つ附近農業の富が名古屋に集中し、かくて後、工業の中心となり、隨て亦た政治上及び軍事上の中心となりたるが故なり、其他名古屋の繁榮に幾分を加へたるは、海道佛教の中心となりたると、將た又た娯樂の中心となりたるが故なり。偖て大邱にして名古屋たらんことを期すれば、名古屋が今日の繁榮を致したる如上の諸原因に依らざるべからず、因りて思へば北海道開拓の當初、札幌の草創せらるゝや、時の開拓長官黑田淸隆君が斷行せし『御用火事』なるものと、左院に伺しぶしたる二個條とは、大邱人士の參考とすべきものあり、即ち府を札幌に定め、人民の寄集するや、此處に定住するの決心なく、善加減（よいかげん）に金さへ儲（まう）けなば直ちに內地に歸り去らんとする者多かりしかば、家屋と云ふ家屋は小家懸（こやがけ）にて一時の間（ま）合ハセモノ多かりき、黑田君以爲らく、かくては北海道開拓は成就すべからずと、即ち命じて札幌の市街中小屋多き部分に放火せしめ、御用々々と呼ばゝりて悉く燒き拂はしめたるもの、『御用火事』是れなり、固より今日の時勢として此の如き蠻勇を學ぶべきにあらずと雖も、凡そ新開地に人民の定住を促し、百年堅固の建築物を起さしめ、千年の基礎を造らんとすれば、『御用火事』の精神も亦た酌み取るべき點なきにあらず。又た黑田君の左院に伺したるは、第一札幌

大邱をして名古屋たらしむる方法。

に寺院を建立する事、第二遊廓を開設すべき事の二個條なりき、其の意味たるや、人は金の儲かるのみにては永く新開地に耐え得る者にあらず、娯樂なくんば不可なり、然かし現世にこそ娯樂は可なれ、娯樂に倦（あ）けば、來世の事共を考へ起すべく、殊に家族的移住を促すには、老人も婦人も來るべきを要し、而かも這般の人々は死後の事を考ふるなるべく、此點をして此の地方を墳墓の地なりと決心せしむるには、疾く寺院を建設するにありとて、偖てこそ遊廓の開設、寺院の建立を企畫したるものなれ、予は遊廓とは云はざれ、娯樂場（ゆうらくじょう）と云ったに多く設くる事、完美せる寺院將た教會を建立する事は、大邱の發達に必要の條件なりと信ず。以上は必要の條件にこそ相違なけれ、未だ以て大邱の大を期する原力にはあらず、大邱にして名古屋たらしめんと期すれば、大邱をして所在農業の大中心たらしむるにあり、能ふ丈ケ多數の日本農民を招徠し、資本家は主として日本小作人を誘致する工夫に出でざるべからず、而かも其の工夫如何。予は名古屋の東十里、三州岡崎の出身なるが、德川氏は岡崎より興りて天下を平定せしなり、其頃に於ける德川氏は未だ創業時代とさへ目すべからず、目鼻も附かざる有樣なりしが、淸康公（家康公の祖父）の時、其將大久保左衞門五郎忠茂の力に依り、岡崎は攻めずして公の手に入り、依て以て公は岡崎に居城されしかば、公には左衞門五郎を賞せんものと、其の欲する所を問ふ、答へず、强ひて後答へて曰く、願くは岡崎城下の市稅を

日本小作人招徠の方法。

養蠶。

煙草の栽培。

頂戴致したしと、公之れを許しながらも其の貪欲を疑はれたりき、何んぞ圖らん、忠茂は盡く岡崎の町人を召し、君命なりとて市税を免除しぬ、四方の商旅、之れを聞き、『岡崎城主は善い城主』と謳歌して爭ひ來り、岡崎は此時より富强となり、德川氏が將來天下の覇權を握る端緒正に此時に啓きぬ。此の如く新開地にありて多數の人民を招徠せんと欲すれば、何にかに人に利益を得せしめ、與へて取ると云ふ主義に出で、資本家は先づ自己の利益を犧牲にして人に得を分ち、かくて以て十倍二十倍の利益を他日に取ると云ふ方法に出でざるべからず。然れば大邱附近に日本の小作人を招徠せんと欲すれば、資本家が自から利益を犧牲にする丈ヶ夫レ丈ヶ多數の者來り集ふなり、例へば五町歩開墾すれば一町歩を與へるとか、十町歩開墾すれば、三町歩を與ふるとか、小作人をして將來土地を自分にて所有し得らるゝと云ふ希望を有たしめなば、彼等は內地より續々と渡來すべく、此くしたりとて資本家は日本の地價の幾分の一と云ふ廉價にて大邱附近の地面を購求したることなるべければ、小作人に新開田畠の五分の一位を與へ道はしたりとて、然まで算盤球に合はぬ話にもあらざるべし。更に又た大邱の風土は乾燥にして我が信濃に似たれば、養蠶に適ふことなるべく、將た又た相模の內陸なる秦野地方の煙草の種子を播げば、相當の見込あるべく、縱し秦野煙草の種子が韓地に移植して退化することあれば、朝鮮時代の大邱と異なり、今日にては日本內地と郵便の連絡完全せるを以て、內地より這般の種子を其の都度々々取寄するも然まての費用を要せざるべし。要するに大邱附近、東西十三里、南北二里の沃野は、將來の大農業地たるべく、大邱の日本人にして發奮されなば、韓半島の內陸に名古屋を現出すること、一片の想像に止まらずとなす。

大邱の將來。

韓國暴徒の將來。

大邱の將來。

以上の如くして大邱は韓半島の名古屋なるべき希望あり、而かも今日地方暴徒の蜂起に依り、大邱の經濟に多少の影響を及ぼし、憂慮する者もありと雖も、暴徒の如きは畢竟世運の進行に連れて絶滅すべく、吾々日本人とても今日こそ韓人の頑愚を笑ひ居るなれ、吾々が小兒時代の頃の日本を回想せられよ、予等が小兒の時代には今日の如き學校の唱歌なるものなく、老人より敎へられたる歌には『大黑天と云ふ人は、一に俵を踏まへて、二に莞爾笑ふて、三に盃挓へて、四ッ世の中善い樣に、五ッ泉の湧く樣に、六ッ無病息災に、七ッ何事無い樣に、八ッ屋敷を廣めて、九ッ此處に倉を建て、十でトックリ治まつた』と。然るに明治維新の改革となり、紙幣は發行せられ、士族は廢止せられ、廢刀令は下り、牛肉は食はれ、外國との交際は親厚となり、城廓、邸宅は破壞せられ、京都より東京に遷都となるや、何レも皆な今日の有難き大御代の素因なるに拘はらず、當時の老人達は、事理を解せず、大勢を達觀するの識見なく、滿腹

の不平を小兒に洩らし、予等をして歌はしめて曰く、『太政官と云ふ人は、一に寶を紙にして、二に日本アヤにして、三に侍皆な廢し、四ッ四足食ひ腐め、五ッ異國を抱き込んで、六ッ無暗に稅を取り、七ッ何んでも皆な廢し、八ッ屋敷を畠にして、九ッ此處に居られんで、十で東京へ飛んで行かれた』と、此歌を一度唱へ見られよ、何んぞ今の韓人を責むべけんや、吾々も此の如き時代ありしと思へば、韓人の頑愚敢て笑ふべからず、這般の頑愚は世運の進行と共に日日に減少し、遂に絶滅するは大勢上必すべきを以て、諸君子には韓國暴徒蜂起の實際を見て强ひて杞憂せらるゝことなく、大なる希望の光明を近き將來に屬し、愈、發奮し益、勵精し、第二の名古屋を韓半島の內陸に大造せられんことを期す。

慕夏堂文集に就て。

（前略）然らば此程は珍書慕夏堂文集御贈與に預り難有拜誦仕候右は話には聞及居候へ共未だ閲覽致候事は無之候に珍敷存候乍然小生該書は如何にしても韓人の僞作と疑信仕候其理由の大體は左の如きものに有之候。

一、本姓沙名也可とあれども此の如き姓名は日本にあり得べからざるものと信ず。

二、二十二歲の少年が如何に當時の狀況なりしとは云へ釜山に上陸するや直ちに決心し其兵三千（何レ遣大にせしなるべけれども）を率ゐて朝鮮に投降するとは餘り出來過ぎたる話にして常識より判斷するも事實と受取られず。

三、北後の經歷小說的のもの多し。

四、文氣より考するに當時韓人の日本を仇視せしもの日本投降者金春忠なる人を作り假りて以て餘憤を洩らしたる作なりと信ず。

先づは御禮旁、義申上候匆々拜具。

志賀重昂

竹內卷太郎殿

（大邱觀察道書記官）竹內卷太郎殿

（前略）慕夏堂文集贈呈に對し早速御批評の段感謝仕候然るに先生の御高見に對し聊か首肯し得べからざる點左に開陳仕候。

一、昨年（四十一年）十月十一日在大邱の日本人有志四十名（赤司大隊長、寺川五味兩判事、天野醫部、渡邊民長等）を誘ひ日本人の遺族と稱する友鹿洞を訪問仕候洞は大邱を南に距る五里濟道よりは北二里にして八助峠と稱する所あり之れ釜山より大邱に通ずる道路なり此峠の山麓より四幽谷に中里にして友鹿洞なる村落あり四面桃らすに山岳を以てし內に二川の合流する所卽ち此邑なり而して慕夏堂の遺族と稱するもの四十餘戶存在し拷金姓を冒す慕夏堂の屋敷跡あり又共有の堂宇ありて小生等の一行は此堂に於て休憩せり慕夏堂文集の版木は此堂に秘藏す後方の山腹登ること一町餘にして其の墳墓あり石碑の高は六尺餘其形日本在來の石碑に酷似たり是れに依りて之を見るに慕夏堂其人の實在せしことは著も疑なきものと信ず、而して其韓人たるや日本人たるやは疑問なりと雖も古來の口碑に依れば其日本人たることは彼等遺族も之れを信じ世上一般人も疑はざる所なり小生等訪問の際遺族に對し慕夏堂は何處の人なりやと問ひしに九州なりと答へたり。

二、慕夏堂の本名沙也可は日本になきものなりとの說は佐賀縣には砂（マサゴ）なる姓ありと聞く又也可はナリヨシと讀む日本にありて就善とも稱せし故之を變化せしものならんか。

三、事實は小說的誇大に過ぐとの說なるも此の如きは有り勝のことにして深く咎むるに足らず今は唯文韓の役にも斯の如き日本人ありたりとのことを想起し得れば足れりと信ず。

右愚見貴答まで早々拜具。

韓國大邱

竹內卷太郎殿

志賀先生侍史

茨城縣人士と新開地。

韓半島に於ける日本人草創の新市街の一例。

（茨城縣教育總會に於て）。

大田の名を知る者幾人ぞ。

過般茨城縣太田町の實業家より韓國に於ける日本人の事業に關し問合あり、其後恰かも茨城縣教育會より總集會に出講すべき樣御招に預りたるを以て、太田よりの問合に返答を兼ね、茲に韓國に於ける日本人經營の一例を御話申し上げんとす。偖て太田と云へば、茨城縣模範町村の一として御縣人の誰人も承知なき筈なく、且つ他府縣人と雖も、雲井煙草の市場として、又は水戸義公の隱退ありし西山の所在地として、知る者少からざるべし。然りながらタイデン即ち大田（タイデン）を知り居る者、日本人中に能く幾人ありや、かく申す予も未だ全く知らざりし一人なり、御互に知らざるも道理なり、大田は韓半島の內陸（忠淸南道懷德郡）に日本人が勃興せしめたる新市街にして、今より三年半前、即ち明治三十八年二月二十日以前には日本風の家屋なく、韓人の村落も亦た貧窮を極め、毎月四九の市日（いちび）にすら三石の米を購ふ能はざりし處なりき。然るに今日にては、

韓國大田の發達。

▲日本人一千五百　韓人八百。

▲學校建築費二千七百圓　生徒九十人。

▲社寺　大神宮　大田寺。

▲娛樂場　公園　倶樂部　寄席。

▲輸出三十五萬圓　輸入三十萬圓。

▲公共費　歲入六千四百二十一圓　一千圓學校歲出五千四百二十一圓　用地購入費。

▲財產
- 一萬圓以上　十六人。
- 二萬圓以上　七人。
- 三萬圓以上　三人。
- 五萬圓以上　一人。

▲地價　一坪四十圓の處あり。

大田本町

日本人の發展力は天晴（あっぱれ）なるものにあらずや、名は同じく大田と呼び、其の倶樂部は偶然にも常磐倶樂部と呼び、而して更に偶然にも公園は後樂園と呼ばれんとせし時、予が後樂などケチなることを云ふ勿れ、天下の憂に先ちて憂ふるは男子の本分なれども、而かも亦た能く力

め能く働き、大なる利益を得て、天下の樂に先んじて樂しむこそ男子開心の事にあらずや、「己は朝鮮にて此の通り働き、此の通り利益を得て、此の通り大愉快に樂んで居る、それが羨ましければ、老朽せる日本内地より早く韓國に渡來すべし」と、ドシ〳〵先樂するこそ新開地人士の面目にあらずや、後樂の二字は新開地に入るべからざるものなりと呼びたるより、後樂園の稱は呼ばざることゝなりたるが、要するに名稱丈ケは何とも茨城縣人士に緣故あるが如くに同一なるこそ奇妙なれ。かく何も彼も茨城縣の名稱に似たる此の大田に茨城縣人が在留するやと問へば、僅かに男六、女二しか居留せざるこそ不可思議なれ。或は云はん、大阪以西の人將た九州人のみならんと、敢て然らず、五萬圓以上の財産家、即ち大田を草分ケせし内藤氏雄氏は岐阜縣人なり、三萬圓以上の財産家にして第二の草分者たる工藤勇次氏は長野縣人なり。韓國に日本人の多く移住するは韓國開發の大本なり、故に日本の何地方の人が移住したりとて固より仔細なけれ、而かも茨城縣人が大田、將た韓半島に殊に少數なるは事實なり。

茨城縣は新開地發展の大歴史を所有す。

茨城縣は新開地發展の大歴史を所有す。

果して然らば茨城縣人士は新開地に發展の歴史と抱負とを有せざる者なるか。敢て然らず、否な大に然らず、今を距る二百二十年前、元祿元年、早く既に蝦夷の開拓に著目し、著目せしのみならで、快風丸なる舟子六十人乘組の大船を那珂港に造り、蝦夷を探檢せしめたるは義公にあらずや、今日縣下大津の昆布は、當時蝦夷より昆布の着きたる石を持ち歸へりて海に投じたるより由來せしとは、水産家の稱ふる所なり、義公此時齡六十一歳とは壯んなりと云ふべし。又た烈公は天保五年、老中大保加賀守に書を送りて曰く、蝦夷は氣候寒く、雲霧深けれども、大に原野を開き、住民增加すれば、雲霧も消ゆべく、氣候も暖くなるべし、我が封内の民を移植したし云々と、如何にも然り、今日札幌を始め北海道各地に於ける開拓の進行と共に、雲霧は減じ、氣候も年々暖くなれり。又た烈公は、安政四年、老中堀田備中守に書を送り、百姓町人の二三男等三四萬人と共に米國移住を許されたしと建言せらる、此時公齡五十八歳なるに、自身にて是等の人々を率ゐて當時米國に移住すべしと主張せらる、義公と云ひ烈公と云ひ、其の意氣は世界の土壤を呑むの慨ありしなり。

茨城縣は世界の人物を抱容せし大歴史を所有す。

豈に世界の土壤を呑む慨ありしのみならんや、水戸の先君子には世界の人物までをも呑むの慨ありしなり、試みに見よ、

安積　澹泊（祖父は小笠原藩を脱せし人、義公『大日本史』編輯總裁となす。）

佐々　十竹（父は加藤清正の臣、京師にあるや義公に召され、彤考館編輯總裁となり、又た義公の命に依り湊川に楠公ノ碑を建つ。）

茨城縣は世界の人物を抱容せし大歴史を所有す。

栗山　潛峰（山城淀の人、齢十八、深藏大肥を著はす、義公其の學識を知り之れを召す、時に齢二十三、彰考館總裁となる。）

三宅　觀瀾（京師の人、楠公を祭るの文を作る、義公之れを見て召し、次で大日本史編輯總裁となす。）

森　儼塾（攝津の人、義公召して大日本史編輯に從はしむ。）

小宅　處齋（下野の人、威公に仕へ、義公の時、明人朱舜水を公に薦む。）

人見　卜幽（丹波の人、水戸儒者の先驅なり、七十の賀筵に義公親から臨み詩を賦して祝せらる。）

中村　篁溪（京師の人、後江戸に移り、義公召して彰考館總裁となす。）

酒泉　竹軒（筑前福岡の人、義公に仕ふ、其の病むや義公親から藥を賜ふ。）

名越　簡齋（江戸の人、名は十藏、常に軟衣を著くるを以て ボロ十藏と呼ばる、水戸に仕へ、大日本史編輯總裁となる。）

安藤　素軒（丹波の人、義公召して大日本史編輯に從はしむ。）

安藤　年山（丹波の人、兄素軒と共に義公に召さる、人に知られたる國學者にして、常陸帶の著者なり。）

長久保赤水（常陸赤濱村の平民なり、文公召して侍讀となす、明治以前に於ける日本稀有の地理學者なり。）

藤田　幽谷（水戸の古著商なりしが、文公に召され、武公の時、大日本史編輯總裁となる、其子は即ち東湖先生なり。）

此の如く日本にて苟くも一技一能ある者とては厚く聘して重く用ひたるのみならず、今日の水戸人士が所謂「他縣人」たる下野の小宅處齋を聘し、此の「他縣人」の言を容れて日本人にあらざる明人朱舜水を聘し、此の外國人の言を容れて更に明人楊鳳翔を聘したりとは、諸君の

今日の茨城縣人士何んぞ新開地に落寞たる。

先君子が當時世界の土壤を呑み、世界の人物を呑まんとせし嘖世の意氣を想望し、其の度量に傾倒せざるを得ず。

今日の茨城縣人士何んぞ新開地に落寞たる。

予は平生好みて水戸歴史を讀み居り、且つは御縣より責任ある人の態、上京に相成り、茨城縣教育會總集會に出席すべしと狂喝を辱ふせし知遇に感じ、知遇に酬ひん爲め茲に直情を直言したるなり。ア、今日の茨城縣人士は何んぞ新開地に落寞たるや、新開地に發展の大歴史を所有し、世界の人物を包容し、大歴史を所有する茨城縣人士の面目今や抑、如何、希くは當年の大歴史に顧みて、予が無禮の直言を包容せられんことを。

君不レ見筑波之峰聞東望。男體女體射二光芒一。霞浦之水千萬頃。蒼上二鯉峰一萬古蒼。又不レ見刀根之水南國紀。天聖盤來三百里。九道流派流不レ窒。滾滾遠出白靈寨。」我今試來常陸國。流峙形勝自傑特。維文維武兩可レ用。八州山河齊風一誅。」想背逆城太猖狂。車駕南狩韶二勤王一。元二尼天爲哭。淚水越山惊二國寇一。先帝股肱雖存者。准大臣臣親毋。」聖諭懇懇授二節劍一。再拜抑レ淚辭二鳳闕一。父子宗黨三千人。部伍肅肅向レ東發。雖レ奈南風覓不レ號。城倡排レ空後後絶。力竭寧期尋常死。生前一欲レ斥二陰謀一。一部神皇正統記。明辨二正閏一。血吐レ鮑。」地誇二嘉種一可レ秀。苗實而果見秋穫時。臣光圀。臣齊昭。亦當二鳥遊虎寢日一。開伏二大義一。尊二天朝一。」陪臣恒藏（會）。陪臣延光（山）。陪臣誠之進（田）。陪臣小四郎（田）。或復二逸書一。備二文教一。大雅洋洋振二變序一。或敵二王愾一。厲二士道一。正氣揚揚補二綱常一。」爾來匆匆四十年。拔土英靈漸推遷。文恬武嬉遂不レ振。聞左虜擄天下權。前賢功蹟高二筑嶺一。諸君何辭酬二前驅一。祖先志業亦二刀杰一。諸君何顧見二祖先一。常陸男兒五十萬。誰克恢復著二先穢一。」

現在の韓國。

（東京高等商業學校に於て）。

韓國の實情は存外に知られず。

韓國の實情は存外に知られず。

在釜山日本人曰く、永川には日本人が居らぬと（其實然らず）。

韓國の實情は未だ多く世に解せられず、一例を申せば、過般予が韓國内陸旅行中、永川（慶尚北道）と云へる處に一泊せざるべからざる豫程なりき、釜山にて種々調べ貰ひたるに、永川には、日本人が居らぬとのことなりき、依りて茶碗と湯沸シまで準備して旅行し、さて永川に到るや、日本人は續々出迎ひ來れり、貴君は何處の人なりやと問へば、東京馬喰町一丁目の者なり、夫婦にて雜貨の店を出し居れりと答ふ、貴君はと問へば、滋賀縣東淺井郡の產にて、日本人會長北川淺次郎と申す者なり、宅にて風呂を沸し御入浴の準備を致し置きたれども、既に御旅宿にても沸せりとのことなれば、私の方は差控ゆべしと云ふ。偖て旅宿に著くや、主婦（山口縣熊毛郡の人）は忠々敬何にくれとなく用意し、護衛の二巡査は別の旅宿に泊すべき準備もなしありき、予は、釜山の人は永川に日本人が居らぬなどゝは何にを云ひたるかと、豫て携行せし茶碗の湯沸シも無用の長物となりしと、自分にても可笑敗感じたりき。翌日大邱に著くや、大邱の人々には、昨夜は何處に泊りたりやと問ふ、永川なりと答ふ、永川には日本人の旅宿が無き故に嘸困却せられしならんと云ふ、否な二軒ありたりと答ふるや、然るかと打ち驚きぬ。此の如く釜山人は永川には日本人居らずと稱へ、大邱人は永川には旅宿なしと云ふ、韓國の實情の未だ日本人に解せられざるは此の如き次第なるなり。然らばとて予が他人を批評するまでに各地の實情に通曉し居れりやと云へば、敢て然らず、予は安東縣には一寸行きて直ぐに歸へるべし、見聞するにも足らぬ小市街ならんと思ひ居たるに、偖て鴨綠江を渡り、安東縣に着くや、幅六間の大道は碁盤目の如く、日本人定住四千五百、鴨綠江の伐木季節には七千人に上り、市街を散歩すれば、大阪初下り娘義太夫は興行し居り、『端午の節句　御かしわ餅　横濱堂本店電話一二三番　同支店』の掲板あるかと見れば、東京庵木店及び分店の生蒲麥の掛行燈を高く仰ぎ、京橋を渡りて日本小學校に入れば、生徒三百人に上り、又た街上に『醫科大學產婆科卒業產婆江上清身』の門札を見、業に既に各地にて日本人發展の實情を見聞に見聞し盡したる流石の予すら覺えず一大喫驚せり。實に各地方に於ける日本人發展の實情は存外なるに、這般の實情の日本内地に傳はらず、日本内地人の此等地方に關する無知識なるは存外千萬と云ふべし。

在大邱日本人曰く、永川には日本旅宿なしと（其實然らず）。

安東縣の繁榮。

韓國の實情判斷の困難。

韓國の實情判斷の困難。

以上の如く韓國の實情は存外に日本内地人に解せられず、然りながら韓國の實情に通曉する

韓國の實情に通曉するまでには四眼五眼を要す。

までには、尋常の二眼の外に、三眼、四眼、時には五眼までも要することあり。例へば慶州（慶尙北道）に行き、小兒の斬髮せし者を見るや、

二ッ眼　ハハー、コンナ內陸の新羅の舊都すらも、餘程日本化したる哩、斬髮頭の小兒や少年が見へるテ。

三ッ眼　朝鮮の田舍にて韓人の小兒や少年が頭を五分刈りにするは、虱が湧いて困るに因る者も少くない。

四ッ眼　眞成に頭腦の開明して斬髮せる者も其間にある、殊に開港場將た京城にては然り。

二ッ眼　成程韓國には荒蕪地が多い哩、京城の傍にて京仁鐵道の兩側にすらコンナ廣い荒蕪地がある、ナンダ茫々たる全州平原の下游、一望五萬石も見ゆる處が一反歩四五圓ダと、韓國に移住すべし、韓國に移住すべし。

三ッ眼　京仁鐵道の兩側に荒蕪地のあるは、雨季には洪水漫々と浸す故である。全州平原の下游は旱魃甚しく、其時には一滴の水すら得べからず、此邊の韓人は一日一食、被服は一著しか所有せざれば、洗濯の間は素裸となつて居る、一反歩の價四五圓なる豈に偶然ならんや。

四ッ眼　然かし荒蕪地の間に慥かに洪水にも浸されず、旱魃にも會はざる部分もある、全州平原の中游以上は其の一例である。

二ッ眼　韓國の暴徒は、政變より由來せるものもある。

三ッ眼　政變より由來せりとか、國事上の源因とか云ふは今や絕無となり、全く假の食へざるより起りたる眞の强盜、火附け泥棒たるに過ぎず。

四ッ眼　慥かに在京城の最高所と連絡し、外國宣教師の聲援ありと稱ふる徒もある。

五ッ眼　目前の暴徒は鎭定し得べし、來るべきは思想界なる暴徒の處分なり、（一）儒生、（二）日本留學生、（三）基督教徒、（四）波蘭亡國史、越南亡國史、埃及衰亡史などの韓譯を愛讀せる半可通を如何すべきぞ。

二ッ眼　彼レは日本人黨なり。

三ッ眼　ナニ一ハイカラのみ、日本瑯負とか一進會とか標榜して自己が目前の利益を圖るに過ぎず。

四ッ眼　韓國の開進及び前途の爲めに慥かに死生を賭し居れる部分もある。

二ッ眼　朝鮮人はノラクラして日を暮し、實に懶惰者なり。

三ッ眼　現に田植季節の此頃、眞の夜半でも水を田に引いて居る者が少くないでは無いか、懶惰者など、は皮相の觀察である。

四ッ眼　ナニ昼日中だと水を多人數にて引き、思ふ存分に我田に水を引くことが出來ぬ故に、晝は寢て働かず、夜半にソッと起きて我田に存分に水を引くのである。

五ッ眼　韓人の間に慥かに勤勉の性質も存在せり、然りながら所謂ムラありて、或る有限の時間には非常に勤勉なれども、其他の時には懶惰極れり、要するに連續せる勤勉力なし。

韓半島に於ける日本人の系統。

東京以北の人（那須野ヶ原、奥羽の平原を見慣れ居る者）曰く、コレ見よ、朝鮮に明き地などがあるものか。

大阪以西の人（山の頂上まで田畠を開墾せる事實を見慣れ居る者）曰く、コレ見よ、朝鮮には實に明き地が多いこと。

韓半島に於ける日本人の系統。

偖て名古屋市を以て大約日本國を全半し、名古屋以東の人口動態は北海道、樺太に向ひ、名古屋以西の人口動態は臺灣、韓國、滿洲に向へる趨勢あり、即ち

北海道（過半は東北人）			四五	
樺太移住者	東北	青森縣	一〇	二五
		秋田縣	八	
		山形縣	四	
	其他		三	
	北國	新潟縣	五	一五
		石川縣	五	
		富山縣	四	
		福井縣	一	
	關東	東京人最多し	一〇	三
	名古屋以西			一
	四國			一
	九州			一
韓國居留者	九州	長崎縣	一〇	三五
		福岡縣	一〇	
		大分縣	八	
	其他		七	
	四國	愛媛縣	四	一〇
		香川縣	三	
		高知縣	二	
		徳島縣	一	
	中國	山口縣	一五	三五
		廣島縣	五	
		大阪以西	一五	
	名古屋以西			一〇
	名古屋以東			一〇

一〇〇人

一〇〇人

此くして韓國の內陸へは十圓二十圓の小資本を以て來住するも、韓人を相手とし行商將た駄菓子など製造して賣り居れば、決して糊口に差支ふる心配はなく、樺太には寒地漁業、寒地山林事業、石炭採掘の如き利源あるを以て、之れを一言にすれば、日露戰役の賜は天帝自から公平に日本國民に折半し玉ひ、樺太は東京以北の人の經營、韓國は大阪以西の人の經營に任せられたる如き觀あるなり。然りながら東京以北の人なりとて、韓國に來住すれば夫レ〳〵の事業あるべきは固よりなりと信ず。

在韓日本人の現狀。

在韓日本人の現狀。

在韓の日本人は現下如何の有樣なりや、是れ予が數ば受くる質問なり、然るに『熟〻日韓兩國の形勢を惟れば、韓半島への日本人移住は益〻奬勵せざるべからず』とか、『日本の人口は一ヶ年五十餘萬宛增加す、海外への移住は刻下の大急務なり』とか呼號し議論したりとて、此の如き事を解する位の人々は業に既に是しきの議論は百も千も承知し居る者なり。然りとて是しきの議論だに承知せざる人々に對して、此の如き事を幾回呼號したりとて其の甲斐もなければ、歸する所此の如き議論は中流以上には必要なく、將た又た中流以下にも必要なく、要するに何等の効能なき空言空論空文字に過ぎず、夫レよりは上にも下にも早判りする話の三四を申し上げ、是にて在韓日本人の現狀の一斑を了承あらんことを望む。

長生浦の東京老人。

長生浦の東京老人。

長生浦（慶尙南道の東海岸、捕鯨事業の根據地）に一老人あり、東京横山町產の粹の江戸兒として、流石に『東京亭』てふ二階家の旅宿を濱邊に建て居れり、老人曰く、私は江戸產なれば、朝鮮にて貯金せし後、何卒東京に歸つて樂々と住ひたいのが年來の志願でありました、若干の貯金が出來たれば、勇みに勇んで東京に歸へりました、然るに東京にては生計難とか申して、江戸兒も近年は御米の價が高いの安いのと云ふ話のみする、酒は一升六十錢以下のものは飲めたものでなく、魚は高し、隨て人はコセ〳〵する、元來江戸兒と云ふ者は他人の批評などは餘リ致さゝる流でありましたが、近頃は人の批評ばかりする樣になり、誠に氣が詰る樣に感じましたから、一日も早く朝鮮に往きたくなり、さて此處へ再び返へり來り、御蔭にてモー〳〵氣がノビ〳〵する樣になりました云々。

三千浦の豆腐屋。

三千浦の豆腐屋。

三千浦は統監府最近の通信圖には掲げあれども、在來は如何なる地圖にも記載せられず、現に日本郵船會社神戸支店の栃木氏より寄せ來りたる書面にも『海軍水路部海圖第三〇四號概位北緯三四度五五分五〇秒、東經一二八度四分〇秒にある三川里なるものが三千浦に候や』とあり、專門家すら質疑中の此の三千浦に早く既に日本の豆腐屋まで出來たるなり。偖て英

吉利人が「ハッス、ビール（三鱗麥酒）のある處には英人行く」と云ふ如く、予は韓國の日本人新開地に到る毎に居留民の定住の程度を測らん爲め、日本の豆腐屋が出來たりやと問ふを例となせるが、此の三千浦にも豆腐屋ありとのことなれば、早天なれども早速訪づれたるに、山口縣大島郡の產にて、夫婦に小兒の外、半ば眼の見へぬ七十歳の老母と四人暮シにて、折柄朝飯の際とて鯛の燒きたるを老母に侑め居たり。然れば予は、オイ朝鮮の豆で、日本流の豆腐を製り、ソレデ錢を儲けて、朝から親に鯛の燒き立を食べさするとは、ナント羨しいではないかと云ふや、夫婦は、試に有難う御座りますると答へる狀は、一幅の油畫に寫したき心地しぬ（古風なる『二十四孝』以外の孝なり、文明式親孝行の最上乘の粉本）。

朝鮮へは未だ來ないのか。

平壤居留民長代理澁谷氏（熊本縣人吉）には、今回家族を鄕里より伴ひ來り、さて平壤に著くや、非盤目の如き日本の新市街起り、市街には人車鐵道あり、京義鐵道創設の大紀念碑は三丈の高サもて巍然と屹立し、何レも人吉などにて見たることもなき事物のみなれば、其の令息は父に向ひ、おとう樣、朝鮮へは未だ來ないのかと繰り返し〳〵問ひたりとの澁谷氏が直話は、肥前五島の漁夫が群山沖の竹島に來り、イヤ此處には朝鮮人が居るナと喊びたると、二幅對の話と云ふべし。

朝鮮へは未だ來ないのか。

日本は外國の樣な考が致します。

新義州の旅館にて十八九の上品なる女が給仕に出で來れり、予はお前は何處の人かと問ふや、岐阜縣美濃なりと答ふ、美濃は何邊かと問ふ、私は存じませぬ故に父に聞きますと答ふ、嫁入盛りの小賢き女が自分の產地を知らぬとは妙なりと思ひたるが、軈て此女は仁川にて生れたりと云ふこと判り、成程美濃の何邊なるかを承知せざるも尤モなりと思ひ、依て女に日本に往きたきやと問ひたるに、イーヱ日本は外國の樣な考が致しますが、生レ故鄕の仁川へは往きたくて溜りませぬと答ふ。予は韓半島旅行の最終日に此女の返答を聞き殊に愉快に感じたり、即ち此の如き女は韓國を以て自國と思ひ、却て日本を外國視し居れるなり、此の如き日本人が韓半島に增加すれば增加する程、眞正に日本の勢力は扶植し得らるゝなり。要するに在韓の日本人は韓國を以て我が故鄕なりと思ひ込みて、茲に初めて日本の韓國政治は大成せらるゝものとす。

日本は外國の樣な考が致します。

現在の韓國。

予は以上に於て何等の議論をも申さず、唯だ現在の韓國を有りの儘に諸君子の前に開展し、に過ぎず、夫レより以上は諸君子が各自の頭腦に於て考慮せられ、判斷せられ、以て向後韓半島に事業を實行せられんことを望む。

現在の韓國。

韓半島に於ける日本人の配布。

（華族會館創立紀念に於て）。

韓國に散在せる日本留居地は一群島の觀あり。

韓國に散在せる日本居留地は一群島の觀あり。

日本人の韓半島に居留せる大約十四萬あり、而して這般の日本人は固より一個所に集まり居らず、半島の東西南北に點々と散在せり。此く點々せる小日本個々は、恰かも一群島たる觀ありて、群島中の大なるは日本人口の二萬以上ある京城、釜山なり、中位の島は仁川、平壤、龍山、馬山、木浦、元山、鎭南浦なり、小なる島は晋州、定州、全州、公州より以下、慶州、永川などにして、海中に兀立せる一個の岩礁は一人の愛媛縣人が居留せる鳳岩留（ボアン）となす。

群島の間に船舶の連絡なし。

群島の間に船舶の連絡なし。

以上の如く小日本の點々せるに拘はらず、個々の關係を通せず、個々の利害を商量せず、個々の得失を調停せざるは、恰かも大小の島嶼が海中に點々すれども、甲島と乙島と、乙島と丙島との間に船舶の通ずるものなきと同樣にして、其の不便は固より、韓半島に於ける日本人の發展を增進せしむるには、頗る遺憾の點なりと考ふ。例へば全州平原の下游、藤本農場以西は水利の便宜しからず、旱魃の患苦しく、愈、西すれば地方は依りては夏季一滴の水すら得

べからざる處あり。然れば全州平原の開發の問題は、如何にして水利の便を得んかとの一項に歸し、偖てこそ全州平原を流るゝ錦江の水を利導せんとする目論見あり。然るに錦江は、下流即ち群山地方に在住する者より見れば、如何にも水量の漫々たる樣に感ずれども、中流以上、殊に公州以上には水少く、蓐時こそ芙江（京釜鐵道驛）以上まで韓船の自由に上下したることあれ、今日にては水少きが爲めに芙江以上は溯るを得ず、茲に又た公州及び芙江の存在は、錦江の水利あるが故なれば、公川、芙江間に小汽船を往復せしむべしとの目論見あり。然るに只さへ減少し來りたる錦江の水をば、下流の全州平原にて灌漑に利導し、大規模にて引水せしならば、公州、芙江間に小汽船を通ずべからざるは固より、韓船を芙江まで溯らしむるすら困難となるべきは必定なり。此の如く上流の芙江、中流の公州、下流の全州平原とは相互に利害を異にするに拘はらず、這般の小日本は船舶の連絡なき島嶼の如く個々特立するのみにして、相互の關係を通せず、個々の利害を商量せず、個々の得失を調停すべき連絡なきを以て、各、御先キ眞暗（さつくら）の有樣にて、將來の事をも考へず、銘々勝手に計畫を腹案しつゝあるなり。

韓半島に於ける日本人の配布。

韓半島に於ける日本人の配布。

何故に以上の如く小日本個々の連絡なきやと問へば、夫れも其筈なり、日本人の韓半島に居

留せんとするや、必らずしも當初より何地方に移住すべしと確然たる考案を有したる譯柄にあらず、其の多數は、新聞雜誌などの記事に依りて甲地方が好かるべしとか、或は坊間の地圖を按じて乙地方に行くべしとか、或は知人が丙地方にて成功せしとか、或は親戚が丁地方に居留せりとか、或は同縣人を便りて戊地方に來るとか、夫レ〴〵の因緣に依り、銘々思ヒ〴〵に半島の東西南北に居留し、甲地方に十人、乙地方に百人、丙地方に千人、丁地方に一萬人、戊地方に二萬人と散在せるより、船舶なき群島の觀あるは偶然にあらず。然れば韓半島に散在せる小日本は、今日より何事を問はず能く〴〵個々の連絡を通じ、彼此の交渉を開き、以て將來の計畫を立つること必要なるべしと信ず。然れば萬一の參考の爲めに半島に於ける日本人配布の地方と、其の存在の理由とを述ぶべし。

韓半島に於ける日本人の配布。

（元山地方は調査せざるを以て掲載せず）。

地名	所在	日本人口	日本人存在の理由	備考
釜山	慶尚南道	三、〇〇〇	日韓連鎖點、四百七十年來の貿易港。大汽船には水淺く港灣からざれども、日本と亞細亞大陸との連絡は此港に是れ依らざる可らず。	前面なる韓國多島海と、釜山の左翼（迎日灣、蔚山灣）及右翼（三千浦、晉州平原）との交通を擴張し、殊に此等地方の水産物を拾收し、京阪魚市場との連絡を謀り冷藏して輸送すれば、將來發展の餘地未だ廣大なり。
馬山	慶尚南道	三、五〇〇	韓半島の南端にあり、直ちに朝鮮海峽に面す、其地位は對馬水道を控制す、然れば日露戰役前までは縱令國力なきも、日露戰役後までは經營に盡さゞる可らざるまでも此地點の二〇〇、生徒三、〇〇〇、各種學校あり。電話あり。	馬山より北數里の物資は洛東江の舟運を利とし、晉州平原の物産は、韓國政府の新國道開鑿の後とても、運賃境界（晉城の遠）の以東は馬山より輸出さるべきも、以西の物資は三千浦より輸出さるべく、而して東及び南は四百七十年來の殷賑と繁榮とを具有せる釜山に壓迫せらる、然れば馬山の勢力範圍の狹小なること北海道の增毛の地位と異らず、要するに發展すべき數理少し。
鎮海	慶尚南道	三〇〇	在來の郡守所在地。馬山、晉州街道の一驛、故に雜貨など小商賣をなす者もあり。	既に經濟上の地利少き以上は、今日の海軍軍港（鎮海灣）と陸軍要塞との庇蔭に依りて存在するの外なく、馬山が發展の極點は檍須賀となるに止るべし、而も檍須賀となれば、なる程蟹島港たる地利を失ふべきは自然の數なり。山水明媚、好個の別莊地。
晉州	慶尚南道	六五〇	耕地二千町歩（東西二里、南北半里）の中心市場、又政治上の中心。	日本人の移住せしより市街宅地の賣買價頓に騰貴し、一坪二十四に上る所あり。
泗川	慶尚南道	二七〇	泗川郡衙所在地。晉州、三千浦間の要點。	韓國勸業株式會社出張所あり（本社香川縣高松市）。
三千浦	慶尚南道	一五〇	巡査の要數授す。	晉州平原の門口。
統營	慶尚南道	六〇〇	漁獲物の市場。	在來の世界の地圖に無き水深き良灣。北、晉州府まで七里、地勢平坦。
三浪津	慶尚南道	八〇〇	自作農業。	南韓海岸稀有の漁港たるべき地利を有す。
			養蠶及び葉菜、煙草、果樹の栽培を以て健全なる小日本を造れり。	

長生浦（蔚山灣）	慶尚南道	一四〇小學校設備中。	捕鯨の根據地。水産（魚、鮑、寒天）多し。漁港。蔚山平原の門口。	志願の紡女二百餘人毎年來る。漁季（九月より翌年三月迄）には日本漁夫八百人來る。	
蔚山（本府）	慶尚南道	一八〇小學校あり。	十七方哩のV形の沖積平原の上、政治上の中心。米、大豆、牛、鹽の市場。		
浦項（迎日灣）	慶尚北道	一六〇小學校なし。	大豆及牛皮輸出の門口。漁業、製鹽業。背面に四千町歩の耕地（東西三里半、南北一里半）あり。	不完全なる港なり、然れども登かれ愚しかれ元山に到るまで長距離の間、韓半島の東岸に此灣の外に泊舟の地なし、故に是非此灣に依らざる可らず。漁季には日本漁夫一千人來る。	
慶州	慶尚北道	五〇小學校なし。	蔚山灣及迎日灣の中間に開展する沖積平原の經濟上、政治上の中心。	新羅九百九十餘年間の故都なれば韓國の奈良なり。	
永川	慶尚北道	七〇小學校なし。	大邱より東海岸に出づる國道の要點。	米、大豆、木綿、麻布、煙草の小市場。	
大邱	慶尚北道	三、五〇〇小學校あり。生徒二八〇。電話あり。	耕地四萬五千町歩、東四十三里、南北二里半の中心市場。理事廳、旅團司令部、控訴院、觀察道の所在地。	北、洛東江の舟運と南、慶山驛（京釜鐵道）の米穀輸出との間に挾まれ、更に運輸上に東に迎日灣なる競爭地あり、大邱の將來は小作農業者の招徠に依らざる可らず。	
慶山	慶尚北道	一五〇小學校あり。	大豆、米の輸出驛（京釜鐵道）。韓國拓殖會社經營本部の所在地。	米穀輸出上には大邱の一强敵たる地なり。	
大田	忠清南道	小、五〇〇小學校あり。生徒九〇。電話設備中	大農業平原の中心。茫々たる無人の平原に突如と起りたる小日本。	地勢濶大、地形便利、且つ韓半島の各地に似げなく飲水多量且つ清潔なり、故に傳染病絶無。	
芙江	忠清北道	一二〇小學校設備中。	錦江可航流域の終點。錦江可航流域と京釜鐵道との連結點。食鹽の市場。	芙江より錦江の下流二里、大坪里に久保田政吉氏（筑後人）の農場一百町歩あり。	
鳥致院	忠清南道忠清北道	四〇〇小學校あり。	濟州平原（四里）と公州（六里）との中間にある京釜鐵道驛。		

天安	忠清南道	一〇〇小學校なし。	三南街道の米穀市場。	四三里、溫陽溫泉あり、日本人完全なる溫泉旅館を設立せり。	
公州	忠清南道	一〇〇〇小學校あり。	唐の熊津都督府（日本古史のクマナレ）。觀察道所在地。防衛に便利なる爲め兵馬の根據地となしゝに過ぎず。	小盆地にある市場なれば清人向の綿製商業を以て支那商人に打ち勝つか、然らずんば特種農業（養蠶、煙草の類）を經營せずんば、將來の發展不明了なり。	
論山	忠清南道	一五五小學校設備中。	錦江中游の水陸産物の小中心。		
江景	忠清南道全羅北道	六五〇小學校あり。	錦江中游の水陸産物の大中心。錦江汽船航路の終點。錦江を渡れば川とすれば越後の長岡の地位。	將來拓殖鐵道は是非とも此處を通過すべし。	
群山	全羅北道	三、三〇〇小學校、生徒三〇〇。電話あり。	錦江流域の門口。錦江及全州平原耕地（八萬町歩）の門口。	多望なる開港なり、然れども港口即ち錦江河口に土砂堆積して好錨地たらざるは新灣なり、要するに群山の將來は（一）港口の改良（二）港の設備（三）拓殖鐵道の連絡（四）全州平原の水利の如何を以て裁決せらるべし。	
全州	全羅北道	五五〇小學校あり	觀察道所在地。全州平原の極點。	群山の發展と相待ちて發展すべし。	
木浦	全羅南道	三、三〇〇小學校あり。生徒一、三〇〇。電話あり。	榮山江流域（耕地三萬町歩）の門口。水深きは群山港に優れり。	西鄙の地位の如し、即ち東は釜山と南海島沖までの水産權を競爭し、北は群山と萬浦の米穀輸出を競爭し、此二競爭に打ち勝てば大に覇を韓半島四海岸の南半に稱ふるに足れり。	
仁川	京畿道	三、〇〇〇小學校あり。生徒一、〇〇〇。電話あり。	京城の門口。	京城を東京とすれば横濱の地位。	
京城	京畿道	三、〇〇〇高等女學校、小學校二あり。電話あり。	政治上の大中心。	世人の群かに知る所なれば記さず。	

龍山	京畿道	三、五〇〇	小學校あり、生徒四〇〇。電話あり。	京釜鐵道、京義鐵道の連絡點。
永登浦	京畿道	八〇〇	小學校あり。電話あり。	京釜鐵道、京仁鐵道の連絡點。漢江運漕の重要點。蔬菜栽培。製瓦（煉瓦、石、土管、瓦）。
水原	京畿道	二、一〇〇	小學校あり、生徒三〇〇。	大農業平原の中心（韓國農工商部勸業模範場、同農林學校あり）。觀察道所在地。
開城	京畿道	九〇〇	小學校あり。	人蔘産地の中心（韓國宮內府蔘政課試驗場あり）。高麗五百年間の故都。
平壤	平安南道	六、五〇〇	小學校あり、生徒四〇〇。電話あり。	大同江の大平原中游の經濟上、政治上の中心。理事廳、鎮圍司令部、觀察道所在地。
新義州	平安北道	一、三〇〇	小學校あり。電話あり。	鴨綠江右岸（滿洲側）にある鴨綠江流域の門口。鴨綠江流域は木材、大豆、山繭の大産地なれば、安東縣は其中心市場なり。日本陸軍所轄木材廠、統監府營林廠、日清採木公司あり。
安東縣	滿洲	四、五〇〇	小學校あり、生徒三二〇。電話あり。	鴨綠江流域の北端近くにあり、直ちに鴨綠江に臨む、北地位は韓國と滿洲との要衝にあり、滿洲の一部を控制す、然れば日露戰役前までは韓國力を賭するまで此地點の經營に盡さゞる可らざりき、然れども日露戰役の結果は此地位を轉倒せしめ今日となりては、如上の理由の半を失ふ。

京城を東京とすれば品川の地位。

此所在の蔬菜栽培は發達の希望あり。漢江可航點までの道路を新開すれば將來運漕の便を增進すべし。

京釜鐵道沿線にありて有望なる地の一。

人蔘の需用は文明の進歩と逆行す、故に開城の眞成の發展を謀らんとすれば、公州と同一の方法に依らざる可らず。

平壤の附近、大同江の沿域には中生層Y形に貫通する約十二里、此中生層には無烟炭を含有し、北貧カーゲフ炭に同じ、然し韓半島工業上の大煖所は、燃料の缺乏なり、而も平壤炭にして鹿兒に供給せられ、且つ今回安奉鐵道にして改修されば、撫順炭も容易に韓國に入るべし。是に於てか韓半島の燃料缺乏問題は解決さるべし。

鴨綠江流域の產物（木材、大豆、山繭等）は鴨綠江流の水勢上、對岸の安東縣に集積するのみならず、安東縣は約四十年間の殷盛と繁榮とを具有するを以て、新義州は目前の強敵に對し之と拮抗して、單獨の發展を遂ぐること困難なり、要するに發展すべき餘地少し。

既に經濟上の地利少き以上は（安奉鐵道の改修と共に鴨綠江に鐵橋を架設さるべく、架橋工事に依りて一時の奇利を博する都は眞正の經濟的根柢に非ざれば、之に別とし對岸の安東縣と行政上にも經濟上にも合同し、安東縣の一區となりて存在するの外なかるべし。

山水明媚、好個の隱居地。

安奉鐵道改修と共に更に發展を遂ぐべし。

大役小志終。

明治四十二年十月卅一日印刷
明治四十二年十一月三日發行

（大役小志奥付）

（正價金五圓）

著作者　東京市赤坂區靈南坂町三十四番地　志賀重昂

發行者　東京市小石川區戸崎町四十六番地　大橋省吾

印刷者　東京市本所區番場町四番地　笹川欽藏

印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社本所分工場

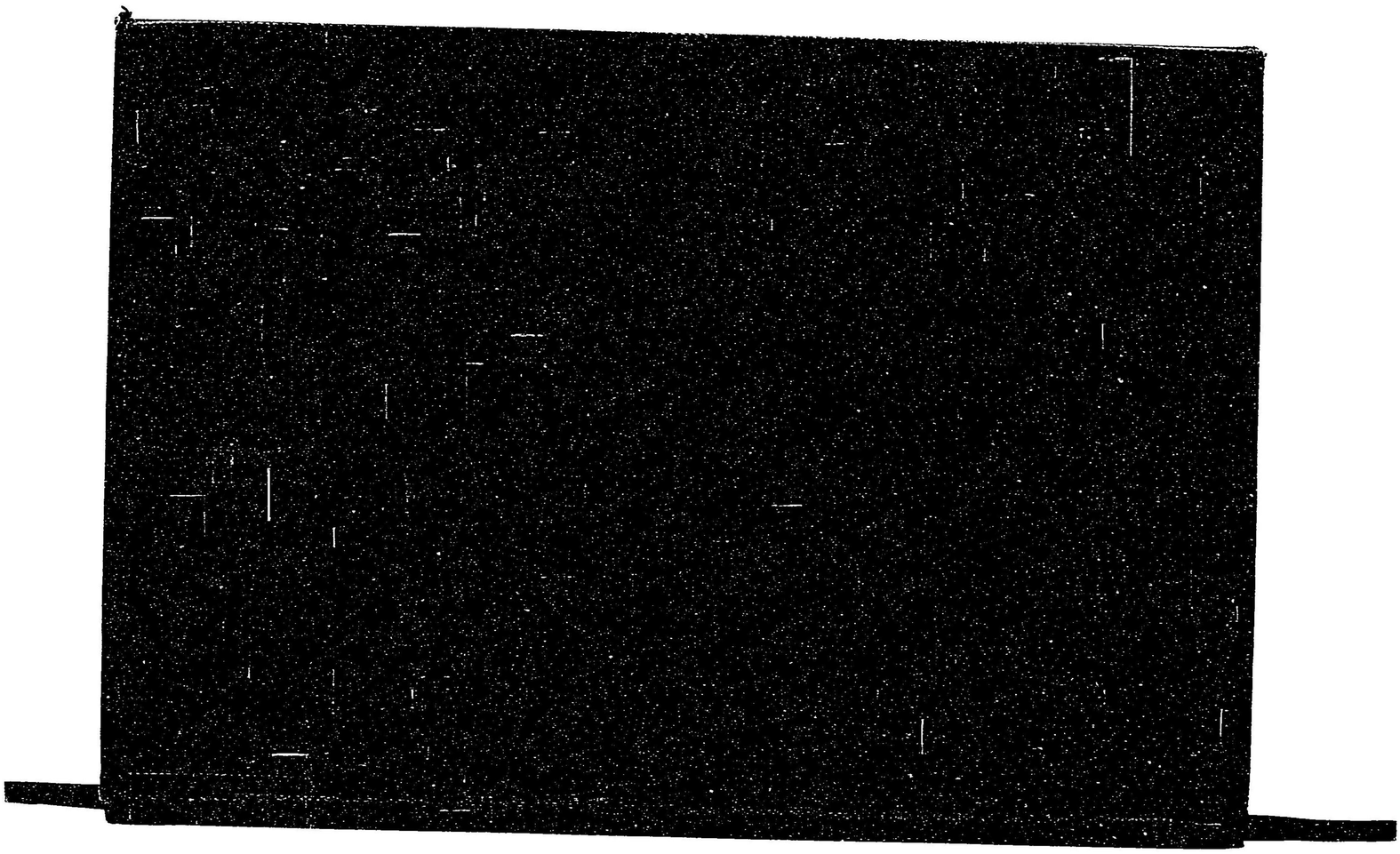
（金子製本所）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

發兌元　東京市神田區表神保町三番地　東京堂

特約賣捌　大阪盛文館　吉岡平助　名古屋川瀨代助

10.10.26
エトV25
J.1348



002774-000-0

42-306

大役小志

志賀　重昂/著

M42

ACB-6240